

くろしお KUROSHIO

March 2026 Volume 51



鹿児島県立短期大学
地域研究所

目 次

【巻頭言】

魅力ある県立短期大学づくり～これまでとこれから～	学長	飯干 明	1
--------------------------------	----	------	---

【退任の挨拶】

退任のご挨拶	文学科	米村 大輔	3
退任のご挨拶	商経学科	岩上 敏秀	4

【新任の挨拶】

新任のご挨拶	文学科	野田ゆり子	5
着任のご挨拶	生活科学科	牛山紗稀子	6
着任のご挨拶	生活科学科	田野 耕平	7

【海外研修報告】

ハワイ大学・カピオラニ・コミュニテイカレッジでの海外研修報告	文学科	石井英里子	8
学生だからできる体験をin Hawaii	文学科 英語英文学専攻1年	上野 心湖	9

【生涯学習の取り組み】

2025年度 鹿児島県立短期大学 公開講座 現代における課題を考える－社会・経済・テクノロジー	文学科	遠峯伸一郎	11
2025年度 伊敷公民館講座	文学科	遠峯伸一郎	15
2025年度 鹿児島県立短期大学 奄美サテライト講座	商経学科	福田 忠弘	17

【地域研究報告 2025年度プロジェクト研究】

<共同研究プロジェクト>

中小企業における経理業務のデジタル化対応とその課題分析	商経学科	宗田 健一	19
書面添付の実践が中小企業の経理業務に与える影響の分析	商経学科	宗田 健一	19
かごしま茶に関する基礎的研究	文学科	小亀 拓也	19
	生活科学科	木下 朋美	
	商経学科	福田 忠弘	
ヤクシカ肉のジビエとしての品質に関する研究	生活科学科	中島 一喜	20
		多田 司	

<個人プロジェクト>

全国および旭川における障害児の普通就学状況およびその教育内容	商経学科	田口 康明	20
奄美大島・泥染めによる美術作品の制作	生活科学科	北 一浩	21

【研究・社会活動報告】

2025年度 鹿児島県立短期大学教員 研究社会活動実績一覧			22
-------------------------------------	--	--	----

表紙写真：屋久島 大川の滝 撮影：内田克巳

【巻頭言】

魅力ある県立短期大学づくり ～これまでとこれから～

学長 飯干 明

これまでの魅力ある県立短期大学づくり

本学は、昭和25年に鹿児島県立大学短期大学部として開学し、昭和33年に鹿児島県立短期大学へと改称した。開学以来、1万7千人を超える卒業生が、経済、文化、行政など様々な分野で活躍しており、地域に貢献する人材を育成する短期大学として高い評価を得ている。

今年、本学が創立75周年を迎えることができたのは、開学以来の少人数によるきめ細やかな教育に加え、平成4年から、「魅力ある短大づくり」として、「将来構想策定委員会」を再編し、「機構改革委員会」を設置するなどして、本格的な取組が開始されたことが大きく影響しているとみられる。「機構改革委員会」では、他短期大学での聞き取り調査、高校関係者や企業関係者との懇談、高校生を対象としたアンケート調査などを実施し、現行の二部（夜間）を含めた4学科6専攻という教育組織の再編に加え教育内容の再編にも取り組んだ。その結果、再編された学科体制等が、平成7年から実施され、その後も、「魅力ある県立短期大学づくり」として、時代に即したカリキュラム改革など主体的な取組が行われてきた。

「魅力ある県立短期大学づくり検討委員会」の提言書

鹿児島県は、本学における入学者の9割以上が県内出身者で、就職者の約8割が県内に就職することから、若年者の県内定着に大きく貢献していると評価している。しかしながら、今後、少子化の更なる加速が見込まれるなか、将来にわたって魅力ある県立短期大学をつくっていくことが重要な課題であるという認識のもと、令和6年5月に有識者による「魅力ある県立短期

大学づくり検討委員会」を設置した。委員会では、短期大学であることを前提に、時代の要請に対応した教育内容の更なる充実などについて幅広く検討が行われ、令和7年3月に「提言書」が取りまとめられた。

提言書では、「(1)時代の要請に対応した教育内容の更なる充実について」として、アクティブ・ラーニングを取り入れた科目等の設定や郷土に関する学びに関するリベラルアーツ教育等の実践、文学科の名称や教育内容の見直しの検討、デジタル化やAI時代に対応した教育の充実、リカレント教育の充実などの検討が望ましいとの提言があった。また、「(2)学生の確保に向けた取組について」として、高校生の認知度向上を図るために学科・専攻名称の見直しの検討、コミュニケーション力を重視した教育内容の更なる充実、各種媒体を活用した積極的な情報発信、入学者選抜方法の見直しなどの検討が望ましいとの提言があった。

その他にも、「(3)企業・大学等との連携や地域社会への一層の貢献について」として、企業・大学等に対する積極的なPRや人材の活用、地域と教育を一体化した取組などの提言があった。また、「(4)独立行政法人化について」では、県において、本学に同制度を導入することによるメリット・デメリットの具体的な検討・検証を行ったうえで、その是非について丁寧に整理することが望ましいとの提言があった。そして、提言書の「おわり」には、本提言を活かして、鹿児島県と県立短期大学において具体的に検討し、魅力ある県立短期大学づくりに向けて取り組まれることを期待する旨が記述されている。

これからの魅力ある県立短期大学づくり

上記の「提言書」には、本学で、既に実施している内容もみられた。そこで、提言書に記述された教育内容等に関する提言事項について、①令和7年4月時点で実施している内容、②検討課題と充実案、③設備等の関連事項、④検討の担当、という観点から整理し、各委員会や各学科・専攻で検討を開始した。

検討をすすめながら、デジタル化やAI時代に対応できるように講演会を開催したり、社会人向けリカレント教育として、栄養士就業者を対象とした管理栄養士国家試験勉強会を実施している。また、企業との連携については、地域の経済情報誌にリカレント教育に関する相談窓口を紹介した。

提言書で示されている、その他の事項については、学科・専攻名称の見直しや入学者選抜方法の見直しなど、検討に一定の時間を要するものもあるが、できるだけ早期の実施を目指して、各委員会や各学科・専攻で鋭意検討を進めている。なお、それらの検討内容については、鹿児島県と鹿児島県立短期大学とで令和7年5月に設置し、定期的で開催されている「魅力ある県立短期大学づくり検討会」において、意見交換を行っている。今後、少子化等の影響も視野に入れながら、引き続き、更に「魅力ある県立短期大学づくり」を目指して検討を進めていく必要がある。

【退任の挨拶】

退任のご挨拶

文学科 米村 大輔

着任したての頃、喧騒とした3号線から正門をくぐった時に感じた静謐とした空気。まるで孤高の別世界が広がっているような空気になんとも言えない解放感を覚えたことを思い出します。春は至る所で舞い散る桜の花びらに目を細め、梅雨の紫陽花に心癒され、秋の金木犀の香りにちょっとした幸せを感じたりして随分とキャンパスの四季から活力を頂きました。そして学生からも活力を、何よりも学びを得ることができました。

二部の授業では高齢の受講生がいました。教室の一番前の席で、鉛筆削りと数本の鉛筆をきちんと並べて姿勢を正し、凛として授業開始を待つ姿に襟を正されました。これまで教室の後ろに固まっていた他の学生も次第に教壇近くの席に座るようになり、やがてその方の理解が難しそうな内容に手を差し伸べている姿も見られるようになりました。孫くらいの年齢の学生たちと協働学習をしている光景はたくさんの示唆を与えてくれました。熱意は伝播する。本来教員が伝えなければいけないことをこの方はいとも簡単に（簡単ではないのかもしれませんがそのように見えてしまいます）やってのけてしまいます。学びは本当に尊いものだとつくづく思います。何があっても学生の学びを阻害してはならない。当たり前のことかもしれませんが、教育機関に関わる人が持つべき使命だと改めて思うようになりました。

県短の学生は他大学の学生とは何かが違う。学生の発表や議論で感じた発想の豊さに真摯な学びへの姿勢が垣間見られました。最初は、もう少し積極的でも良いのかなと思っていましたが、内に秘めた何かが確かにあるのだと今では思います。彼らの、彼女たちの好奇心を少し刺

激するとそれがじわりと染み出してきます。この3年間は、県短の学生と共に学びを深めていくことができ本当に幸せでした。親身になって私を支えてくれた先生方には感謝の言葉も見つかりません。どうかこれからも県短の学生たちを大切に育て続けてくださいますように。

【退任の挨拶】

退任のご挨拶

商経学科 岩上 敏秀

5年間お世話になった県短を3月末で退任することと致しました。着任前は東京で30年ほど会社勤めをしていました。常に混雑、時にはすし詰め状態のJRや地下鉄で通勤していた頃とは一転、基本はバス利用でしたが、天気よい日は徒歩と、社会人となって初の通勤ストレスフリー生活に感動しながら当地での生活を始めたことが思い出されます。教員経験ゼロからのスタートであったため、最初の2年間は講義準備に追われる日々でした。プリント作成し、講義内容と時間配分を考え、講義終了後は出欠登録と質問への回答作成…。休日を使ってなんとか帳尻を合わせる、まさに自転車操業。当時の講義を振り返ると改善点が多々あり、学生の顔を思い出しながら「もっとわかりやすい講義ができたな」と今さらながら反省する次第です。それでも、真面目に取り組んでくれた学生の皆さんには感謝の言葉しかありません。

講義やゼミでの指導を通し、実務家出身教員として大事にしてきたことがあります。ビジネス経験を生きた情報として学生に伝える。大学である以上、学問の土台となる理論を学ぶことは必須です。しかし、短大の2年間は余りに短い。限られた時間の中で、教科書的な理論を触っただけで終わってしまうとモノクロ画像が残るだけで、時間の経過とともに記憶がぼやけてしまう。ビジネスの現場で実際に起こっていることをスパイスとして加えることで、理論と現実社会の繋がりが多少なりとも見えてくるはず。無味乾燥と思える教科書的な理論も、カラー動画とセットで記憶に留めれば、卒業後もさまざまなことに関心をもち自ら考える一助となるのではないか。そんなことを信じて取り組んできた5年間でした。

貴重な経験をさせていただいた県短、経験ゼロの私を温かく迎え、仲間として接していただいた教職員の皆様に御礼を申し上げます。そして何より、至らない部分も多かったはずですが、それでも真剣に向き合っていたいただいた学生の皆さんに心から感謝申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【新任の挨拶】

新任のご挨拶

文学科 野田 ゆり子

2025年4月に文学科の助教として着任いたしました、野田ゆり子と申します。2023年に関西の大学で学位を取得した後に、非常勤講師として複数の大学で英語・英文学の授業を担当しておりました。この度ご縁をいただき、鹿児島ので働かせていただく運びとなりました。

私が専門としているのは、二〇世紀のイギリスの小説、特に『ナルニア国物語』の作者であるC. S. ルイスです。ナルニアの作家と申し上げると「児童文学の作家ですね」と言っていたことも多いのですが、ルイスは「児童文学作家」と括ってしまうにはもったいないほど、英文学史上に大きな足跡を残しています。オックスフォードとケンブリッジで文学研究者・教員として活躍し、キリスト教弁証者として大衆に影響を与え、詩、寓意小説、書簡体小説、SF、ファンタジー、神話の再話など、様々なジャンルの文学に取り組みました。文学・哲学・神学に精通していた彼の思想体系は、一筋縄ではいかない豊かさを備えています。

本学で主として担当しているのは、英語（英検2級対策など）のクラスです。授業を行う際は、「英語を英語のまま理解するプロセスを見せる」ということに重点を置いています。文頭から、主語、動詞、目的語などの相互的な関係性を明らかにし、英文を解体していきます。手元の日本語訳をそのまま読んでいくスタイルではなく、ライブ感のある授業にすることで、英語を読む感覚を掴んでもらえればと思っています。また、時折ゲームやアクティビティを挟むことで、英語嫌いを少しでも克服してもらえるように工夫しています。

2025年度は英語の授業のみを担当しておりますが、「ナルニアが大好きです」と話しかけて

くれる学生もいて、大変励みになっています。生粋の関西人である私にとっては、火山と生きる鹿児島は「ナルニア」のような別世界ですが、複数校で非常勤講師をした経験を活かして、研究・教育の双方向から地域社会に貢献できればと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

【新任の挨拶】

新任のご挨拶

生活科学科 牛山 紗稀子

2025年4月より生活科学科食物栄養専攻に着任いたしました牛山紗稀子と申します。私は本学を卒業後、老人保健施設や病院において栄養士として勤務し、臨床現場での栄養管理や食事提供に携わってまいりました。その後、管理栄養士としてさらに経験を積み、患者様や利用者様の健康を食の面から支えることに尽力してまいりました。

10年間の実務を通じて、栄養士の役割は単に栄養素を満たすことにとどまらず、食を通じて人々の生活の質を高め、心身の健康を支えるものであると強く感じております。特に、患者様へ栄養指導を行った後に、不安げな表情が少し明るくなり、「これならできるかもしれない」と前向きな気持ちで退院される姿を初めて見たときには、大きなやりがいを感じたことを今でも鮮明に覚えています。また、後輩育成や学生を実習生として受け入れ、教育に携わる機会をいただいた際には、知識や考え方を伝えることの楽しさと責任を実感しました。若い世代が成長していく姿に触れることで、自らも学び直し、常に新しい視点を得ることができるのだと気づかされました。

また、私自身も管理栄養士の国家試験対策において、本学の先生方から温かく心強いご支援をいただきました。その経験は、働きながら学びを深める上で大きな支えとなり、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、私が受けたそのサポートを学生の皆さんへと還元できるよう精進し、試験対策や日々の学習において頼もしい後ろ盾となれるよう努めてまいります。

教育の場は一方的な知識伝達ではなく、互いに学び合う場であると考えています。学生の皆さんからの新鮮な発想や疑問を大切にし、共に

成長できる環境を築いていきたいと思っております。授業や実習を通じて、理論と実践の両面から学びを深め、食と健康のつながりを理解できるよう導いていこうと思っております。

まだまだ未熟な点も多々あるかと思っておりますが、精一杯努力し、本学の発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくご厚意申し上げます。

【新任の挨拶】

着任のご挨拶

生活学科 田野 耕平

10月に生活科学科生活科学専攻に着任しました田野耕平と申します。建築設計を専門として、これまで住宅から集合住宅、保育園、オフィスや店舗といった単体の建築から、住宅地のデザインコード策定やマンションのコミュニティデザインのコンサルティングなど、建築を通じて人々の暮らしにまつわる多様な場面に関わるプロジェクトに取り組んできました。

建築の長寿命化や持続可能性が言われる現代において、物理的に建築が使えるということだけでなく、生活の場として建築が生き続けるためにはどうしたらいいのかを考えてきました。そのようなことを意識するようになったきっかけは、学生時代に卒業論文で取り組んだ中国の少数民族の集落調査にあります。

調査を行った雲南省は中国の南部に位置し、省の人口の1/3が少数民族とされています。都市部を離れたところに少数民族の集落がいくつも点在していて、土掌房と呼ばれる山の斜面地に日干し煉瓦と平屋根でできた住宅が密集して形成されていました。屋根がつながることで斜面地に広大な水平面を確保し、移動のための道として使ったり、農作物を干したり、子供達が遊んでいたりと、結婚式が行われたりと、日常・非日常を含め生活の場として屋根が機能しているような集落でした。標高の高い位置にあるため雄大な景色を眺め、時に雲を見下ろしながら生活するようなどとも魅力的な集落空間でしたが、設備や衛生面などより快適な生活を求めて近代的な都市部への移住が進み、こうした集落は姿を消しつつあります。空間の魅力だけでは如何ともし難い現実を目の当たりにし、“建築が生活の場として選ばれ続けるために何が必要なのか”を強く意識するようになりました。

こうした経験が私自身が建築を考えていくうえでの視点を形づくる原点となっています。着任にあたり、学生一人ひとりが自分なりの建築の見方を育てるきっかけとなるような「問い」と出会えるよう、授業や日々のコミュニケーションの中で積極的に関わっていきたいと思います。まだ不慣れな点も多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【海外研修報告】

ハワイ大学・カピオラニ・コミュニティ カレッジでの海外研修報告

文学科 石井 英里子

はじめに

2025年9月1日から14日まで、鹿児島県立短期大学の学生30名を引率し、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（University of Hawai'i, Kapi'olani Community College, 以下KCC）における英語・文化研修プログラムを実施しました。本研修は、英語コミュニケーション能力の向上と、ハワイの歴史・文化への理解を深めることを目的としており、14日間のプログラムを完遂することができました。ここに引率者として、研修の内容と所感について報告いたします。

研修の概要

本研修は、KCCと連携し、体系的な英語教育プログラムとハワイ固有の文化体験を組み合わせた内容で構成されました。参加学生30名の内訳は、日本語日本文学専攻2名、英語英文学専攻19名、食物栄養専攻2名、生活科学専攻3名、経済専攻2名、経営情報専攻1名、第二部商経学科1名でした。学生たちはワイキキの'Ōhi'a Waikiki Studio Suitesに宿泊し、毎日スクールバスで大学キャンパスへ通学しました。

プログラムの内容

初日のオリエンテーションでは、プログラムコーディネーターの佐藤さおり氏による説明があり、研修の全体像が示されました。学生は'Ōhi'a（オヒア、ハワイ固有の木）チームと'Ilima（イリマ、ハワイの花）チームの2グループに分かれ、Jennifer Solmirin 講師と Jeffrey Mead 講師による英語授業を交互に受講しました。

初日午後実施された Ho'okipa Me Ke Aloha Workshop は、KCC の特色あるプログラムです。ハワイの文化的価値観、ハワイ語、そしてアロハの精神について学びました。Palakiko Yagodich 氏の指導により、ハワイ文化の精神性に触れる機会が提供されました。

ハワイ文化ワークショップでは、ウクレレとフラダンスを体験しました。Bill Melemai 氏によるウクレレレッスンと、Kumu Liko Asako Chinone Lahoe 氏によるフラダンスの指導を、各チームが交互に受講しました。ハワイの伝統音楽と踊りに直接触れるプログラムとなりました。

Kohlby Soong 氏指導によるマラ・マヌウヌ（KCC 内のハワイ在来植物園）での活動では、ハワイの在来植物に触れ、環境保全について学びました。共同作業を通じて、自然と共生するハワイの伝統的価値観を体験的に学ぶ機会となりました。

9月5日のイオラニ宮殿訪問では、ハワイ王国の歴史について学びました。セルフガイドオーディオツアーを通じて宮殿内を見学し、ハワイの歴史背景への理解を深める機会となりました。宮殿の芝生で行われたロイヤル・ハワイアン・バンドのコンサートも体験しました。

午後のカメハメハ5世司法センター（Kamehameha V Judiciary History Center）では、Taisamasama Ka'imina'auao-Eteuati 氏の指導による模擬裁判を体験しました。アメリカの司法制度について英語で学ぶプログラムが実施されました。

9月9日のノースショア研修では、Loko 'Eā でのボランティア活動に参加しました。Savili

Bartley 氏の指導のもと、伝統的な漁池の保全作業を体験し、ハワイの文化的慣習について学びました。午後はハレイワタウンで各自昼食をとり、旧ワイアルア製糖工場を経由して帰路につきました。教室を離れた実践的な文化学習の場となりました。

9月11日のパールハーバー・フォード島訪問では、戦艦ミズーリ記念館でボランティア活動とツアーを行いました。現地のドーセントの方々の説明により、太平洋戦争の歴史を学ぶ機会となりました。

最終日には英語でのプレゼンテーションと閉会式が行われ、各チームが研修で学んだことを発表しました。

引率者としての所感

KCCのスタッフ、講師陣の献身的なサポートにより、予定されていたプログラムを滞りなく実施することができました。特に、佐藤さをり氏のきめ細やかなコーディネートには深く感謝しております。

一方で、集団行動における課題や、異文化環境での適応に関する課題も見られ、今後の研修実施に向けた改善点を見出すことができました。これらの経験は、次年度以降のプログラム改善に向けた貴重な知見となりました。

本研修を通じて、学生たちは英語学習、異文化理解、歴史認識、環境意識など、多面的な学びの機会を得ることができました。

おわりに

本研修の実施にあたり、共に引率にご尽力いただいた商経学科の前田千春先生には、学生の健康管理や生活面でのサポート、予算の管理など、多大なるご協力をいただきました。また、準備段階から滞在中のフォローに至るまで、学生部の恒松次長と重久教務事務員には、きめ細やかなサポートをいただきました。お三方のご尽力なくして、この研修の実施はあり得ませんでした。

さらに、2025年度も本研修は「ふるさと納

税県短応援プロジェクト」からのご支援をいただいで実施することができました。ご支援くださった皆様に深く感謝申し上げます。

そして、KCCのスタッフ、講師陣をはじめとする現地でお世話になったすべての皆様、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。今回の経験を踏まえ、より充実した研修プログラムの実施に向けて改善を重ねてまいります。

学生だからできる体験をin Hawaii

文学科 英語英文学専攻1年 上野 心湖

私がハワイ海外研修に参加したきっかけは、「英語と海外の雰囲気大好き！」というシンプルな好奇心でした。しかし、実際に誰かと話すとなると自信を持つことができず、間違えることを恥ずかしく思ってしまう、「通じなかったらどうしよう」と足踏みしている自分がいました。だからこそ、一度ハワイという異国の地に身を置いて、自分の英語力を試したい、自分を変えたいと思い、この研修に挑戦しました。

初の国際線長時間フライトに心を躍らせて到着したオアフ島。日本の湿った空気とは全く違う、爽やかでカラッとした空気が私たちを迎え入れてくれました。ホテルへ向かうバスの中から眺めた街並みは、高いビルやヤシの木、おしゃれな店が並び、この場所でこれから2週間を過ごすのだと思うと、期待で胸がいっぱいになりました。

翌日からKCC(カピオラニ・コミュニティ・カレッジ)での研修が始まりました。現地の先生に言われた最初の一言は、「ハワイでは羞恥心を捨てることと積極性が大切です」というものでした。まさに私が掲げていた目標を言われ、背筋が伸びたのは今でも覚えています。最初は現地の先生の話すスピードが速くてなかなか聞き取れず、自分のリスニング力

のなさに落ち込むことが多くありました。

そんな中、私が「今、できた」と思った瞬間があります。自分のことを英語で紹介する授業で、一つも言葉に詰まることなく、さらに特技である口笛をみんなの前で披露したのです。初めて原稿も何も見ずに英語を話し、羞恥心に逆らって口笛という実演ができたということに達成感を感じていました。その授業の最後に先生が "Nice introduction!" と握手をしてくださり、とても自信につながりました。

ハワイの文化体験として、フラとウクレレを体験させていただいたのですが、先生との会話も自然と生まれ、楽しみながらハワイの文化に触れることができました。またイオラニ宮殿訪問、ノースショア研修、パールハーバー・フォード島訪問では、肌でハワイの歴史や文化を感じることができ、感動と衝撃を味わいました。

研修の中で一番印象深かったことは、KCCでの最後の授業でペアで English final presentation をしたことです。ペアでハワイの思い出や学んだことを英語で発表するのですが、この研修で感じたことを英語に書き起こし、共に話し合いながら制作する過程にとっても意味を感じました。

そしてこの研修を終える頃には、英語力の成長を自分自身で感じ、人前で話すことへの抵抗感が薄れ、恥ずかしいという気持ちなどなくなるくらいハイマインドに染まっていました。常に外国人と触れ合えるこの環境は、私の単なる興味を経験という大きな財産に変えてくれました。

多くの課題に直面し、悩み、考え抜いた2週間でしたが、それ以上に得られるものも多くありました。英語力の面でも、人としても大いに成長できた有意義な研修になったと思います。私の人生の中で忘れられない瞬間を刻ませてくれたハワイに a hui hou!



イオラニ宮殿の前で

【生涯学習の取り組み】

2025年度鹿児島県立短期大学公開講座（鹿児島県民大学連携講座）
「現代における課題を考える—社会・経済・テクノロジー—」

文学科 遠峯 伸一郎

本年度の公開講座は、「現代における課題を考える—社会・経済・テクノロジー—」を全体のテーマとして、5月17日から7月12日までの土曜日の午後、全8回にわたって商経学科の教員が各々の専門領域について講じた。受講登録

者68名、延べ受講者数350名の盛況であった。全8回のうち6回以上受講した40名には修了証が授与された。以下では、講座各回の担当者とテーマ（表1）、講座概要を掲載する。

表1 各講座の担当者とテーマ

回	開催日	担当者	演題
1	5月17日	岩上 敏秀	日本経済が抱える課題 —なぜ生産性の向上が必要なのか？
2	5月24日	山口 祐司	国際経済の課題 —米トランプ政権と米中対立をどうとらえるか
3	5月31日	田口 康明	教育の世界で「情報化」はどのように議論されてきたのか
4	6月7日	倉重 賢治	データは嘘をつかない？
5	6月14日	近間 由幸	ジョブ型雇用の現状と課題
6	6月21日	前田 千春	世界の森林環境と森林認証制度
7	6月28日	岡村 雄輝	会計実務のコンピュータ化は、地元企業にどのような影響を与えるか？ —会計のAI化について語る
8	7月12日	福田 忠弘	特産品の販売方法をどう考えるか？

◇各講師の講座内容は次の通りである。

第1回 岩上 敏秀

日本経済は1990年代初頭より失われた30年ともいわれる停滞期に入り、財政赤字や社会保障制度等のさまざまな課題が顕在化した。本講座では、戦後日本経済を「人口」・「労働時間」・

「労働生産性」の3要素から分析し、今後人口減少が進む中で労働生産性の向上が不可欠であることを明らかにした上で、必要な施策について解説した。

第2回 山口 祐司

アメリカと中国という二大国の対立の深まり

は、国際経済の行く末に暗い影を投げかけている。本講座では、冷戦下の米中国交正常化以降、両国の関係が国内の政治・経済や国際環境からどのような影響を受けて変容してきたのかを振り返り、日本を含む第三国がこれから両国と向き合う際の課題点について考察した。

第3回 田口 康明

1960年代1970年代の視聴覚教材を発端として教育メディアの利用開発が始まる。現在でもこの頃の「16ミリ発声映写フィルム」の保存貸し出しが教育委員会等によって行われている。その後、高校教育において情報処理が扱われる。こうした歴史について令和に入ってから「文部科学省CBTシステム」までを紹介した。

第4回 倉重 賢治

現在、私たちの周りには多くの統計データが存在しています。一般に、主観的な情報より、定量的な情報の方が信頼できると言われていますが、データの収集方法や見せ方により印象は大きく変わります。また、集団の代表値として平均値がよく利用されていますが、ばらつきや分布の形状も重要です。これらのことを簡単な例あげて説明しました。

第5回 近間 由幸

近年、大手企業で「ジョブ型雇用」と呼ばれる新たな人事制度の導入が試みられているが、その特徴について電機メーカーでのジョブ型雇用の事例を取り上げ解説した。ジョブ型雇用の導入は、日本企業が海外で優秀な人材を採用するために不可欠であると言われている一方で、労働組合からは管理職層の賃金管理制度に及ぼす影響が懸念されていることを紹介した。

第6回 前田 千春

日本は、国土の約7割を森林が占める森林大国であることを踏まえ、日本の森林・林業の現状と課題、世界の森林面積の変化、木材利用の背景にある社会的・経済的要因を説明した。そ

して、森林資源利用と環境保全を両立する持続的森林管理の重要性を示し、その実践を支える森林認証制度の役割と普及に向けた課題について解説した。

第7回 岡村 雄輝

生成AIの登場によって、会計実務は大きく様変わりしつつある。とはいえ、当初囁かれていたように、会計実務に人間は不要になったかというところではない。では、なぜそのような言説が流布していたのか。本講座では会計を事業の言語とみなす視角から、それが会計についての皮相なイメージがもたらした誤解であることを指摘した。

第8回 福田 忠弘

現在、日本各地では観光客をどのように呼び込むか、地元の特産品をどのように売り込むかが課題になっている。どうすれば地元の特産品を売り込むことができるのか？地元の特産品に込められた人間ドラマをアピールすることにより、消費者に特産品の良さなどを伝えることを鹿児島の特産品カツオ節を事例で紹介した。

◇講座の最後にアンケート調査を実施し、38人から回答が得られた。以下ではアンケート結果のまとめを記す。

1. 今回の講座を知ったのは
 - ①短大のホームページ …………… 6
 - ②県短からのお知らせ …………… 14
 - ③ポスター …………… 3
 - ④知人から …………… 3
 - ⑤新聞 …………… 10
 - ⑥その他 …………… 2
2. 今回の講座は
 - ①よかった …………… 36
 - ②ふつう …………… 2

③よくなかった……………0

3. 自由意見

- * 多くの気づきがあり、立ち止まって考えるきっかけになった。
- * 鯉節愛を感じ、それをどのようにアピールするかが熱く伝わった。
- * 受講への配慮や講義がとても丁寧で優しく感じた。
- * 鹿児島県内の産業の状況について知ることができた。
- * 久々に学校を体験させていただいた。また図書館なども覗いてみたい。
- * 毎回違うテーマで色々なことが学べた。
- * GDPや生産性の向上の必要性など、あまり理解せずにニュースを見ていたが、丁寧に説明していただき、自分のこととして色々と考えられるようになった。
- * 森林を経済学でとらえた講義はおもしろく感じた。また国際経済なども興味をもって受講できた。
- * 普段聞けない話が聞けた。
- * 一步踏み込んだ内容まで、深く聴くことができたので、とてもいい機会になった。知識の幅を広げることができ貴重な経験となった。
- * 各々、興味のある楽しい講座だった。講師のみなさんの情熱が伝わった。
- * 日本の現代の社会情勢、経済などに関することを学ぶことができ、とても勉強になった。
- * 新しい経済のあり方、県内の特産（お茶・鯉節）県外、国外の取り扱い等、今後県内で私たちができることを微力であるが積み上げて行くことが大切であると思った。
- * 働き方改革がなされていく中で、生活スタイルに合わせた環境の下で、どのような形態で働いていくことがよいのか考える機会になった。
- * 現代の課題の一部について考えることができたと思うが、地球環境問題などはそれほど

なく、全てではなかったと感じた。

- * 第2回、米トランプ政権の動向がどのように日本に影響をあたえるのか興味深かった。
- * 現代社会のスピードに埋没または通り一辺倒に受け止めがちな中で、それぞれの分野で着目された講座で、目覚めと反省をさせられた。もっと注意深く生活するように思った。
- * 色々な分野の話が聞けておもしろかった。
- * なじみのない内容については、工夫もしないと聞き手がついていけないのではないか。
- * 普段ふれることが少ない内容だったので、新しい情報を知ることができた。（森林認証制度は、受講後意識するようになった）
- * 自分の知らない分野も多くあり難しかったが、少しでも理解できて良かった。
- * 初めて知ったこと、平素疑問に思いながらも素通りしてしいること。これからの日本のこと、自分自身の日常のことなど考える機会になり、どのテーマも貴重な講座だった。もっと幅広く詳しく知り、勉強したいと思った。
- * 講師の方々が大変熱心で、かつ丁寧な説明でありがたかった。
- * 現在の課題とそれにどう対応するかを考えさせられた。その課題が将来の社会にどう解決困難にしているかを考えることができた。
- * 若いころ会計事務をしていて、借方貸方あわなくて頭を悩ませた。
- * 全体的に理解を深め身近に感じた。
- * 学ぶことが少ないので、良き勉強になったと思った。時代の移り変わりにびっくりした。
- * 先生達もそれぞれ勉強をしていて、理解しやすく説明もよかった。
- * 毎年のテーマが興味深く参加させていただいた。来年度も楽しみ。
- * 土曜日の休日、貴重な時間を使って新しい身近なテーマを研修していただき、心から感謝します。
- * 先生方の貴重なキャリアを背景に感じながら、情報や知識を得ることができた。オムニ

バス形式とその上記により、激しい変化に対応できない不安がいくらか和らいで、逆に楽しみでもある。

- * 良い学びの機会をいただいた。次回もぜひ参加させていただきたい。
- * 経済に関しては、動きも早く身近なことなので、2年に1回程度公開講座をしていただけるとありがたい。

2025年度 鹿児島県立短期大学 公開講座 (おこしま県民大学連携講座)

現代に おける 課題を 考える

社会・経済・テクノロジー

私たちは今、かつてないほどの変化の時代を生き延びています。

社会、経済、テクノロジーにおける変化が激速にあらまいる。

私たちは、未来を大きく左右しかねない多くの課題に直面しています。

これらの課題にも、私たちはどのように向き合い、乗り進んでいくべきなのでしょう。

鹿児島県立短期大学教員が、現代における新課題をオムニバス形式で解説します。

令和7年 5月17日～7月5日 毎週土曜日 13:30～15:30 全8回

5/17 <small>第一回</small> 日本経済が抱える課題 ―なぜ生産性の向上が必要なのか?― <small>北上市典 (経済学教授)</small>	6/14 <small>第五回</small> 食料生産のコンピュータ化は、現代農業にとって必要か? ―食料のAI化について語る― <small>阿部 隆洋 (農林学教授)</small>
5/24 <small>第二回</small> 国際経済の課題 ―米トランプ政権と米中対立をどうとらえるか?― <small>山口 隆典 (経済学教授)</small>	6/21 <small>第六回</small> 世界の森林管理と森林認証制度 <small>細田 千尋 (農林学教授)</small>
5/31 <small>第三回</small> 経済の安定で「環境化」はどのように実現されるのか? ―ESGとESG投資― <small>田口 康明 (経済学教授)</small>	6/28 <small>第七回</small> ジェンダー平等の現状と課題 <small>沢田 由幸 (経済学教授)</small>
6/7 <small>第四回</small> データ活用をどうするか? ―データ活用とAI― <small>奥野 真生 (経済学教授)</small>	7/5 <small>第八回</small> 特産品の販路をどう考えるか? ―特産品の販路とAI― <small>藤原 忠弘 (経済学教授)</small>

場所 鹿児島県立短期大学 3号館 第14講義室 / 定員 40名 / 募集対象 一般県民 / 受講料 無料
 募集期間 令和7年 4月7日(月)～5月9日(金)

【申込方法】 住所・氏名・年齢・電話番号のほかに「公開講座希望」と明記して、以下のいずれかの方法で申し込みください。
 FAX: 099-633-4473 / Email: sakurazaki@kagoshima-u.ac.jp / 099-633-0000 鹿児島電子学習センター / 鹿児島県立短期大学 教務課
 【お問い合わせ】 鹿児島県立短期大学 教務課 公開講座担当 TEL: 099-220-1112(内線137)

鹿児島県立短期大学

*実施に際して、第5回と第7回の順番の入替がありました。

【生涯学習の取り組み】

2025年度 伊敷公民館講座

文学科 遠峯 伸一郎

令和7年度伊敷公民館講座「いきいき大学」は、本学の文学科、生活科学科、商経学科の教員が講師を担当し、10月15日から11月26日まで、計6回にわたり実施された。各回で受講者数は異なったが、21名から25名であり、6回の講座でのべ140名の参加者数となった。各回の講座終了後、受講生が書いたアンケートは、教務課または次回の担当教員を経由して、講座担当者に渡されている。

参加者の感想には、「国語の苦手な私が楽しく学ぶことができた。公開講座などがあればぜひ参加したい」、「とても分かり易く日本語と英

語の表現描写の違いがよく理解できた」、「大変ためになる話で、多くの人に語り継がれるべき現代史の内容だった」、「酵母、酵素の違いや栄養うまみ成分の生かし方など、良い勉強になった」、「消費税、所得税を中心に興味深い内容で、詳しく具体的に分かり易かった」、「洗剤や漂白剤の種類などよく理解できて、生活に役立つ講義だった」など、6回の講義内容はいずれも大変好評であった。

以下では、各回の担当者とテーマ、講座の概要および講師陣のコメントを掲載する。

各講座の担当者とテーマ

回	開催日	担当者	テーマ
1	10/15	小亀 拓也（文学科）	方言の世界
2	10/22	遠峯 伸一郎（文学科）	絵本の英語
3	10/29	福田 忠弘（商経学科）	終結から50年：ベトナム戦争の記憶と教訓
4	11/5	古川 那由太（生活科学科）	美味しいだけじゃない!?酵母がもたらす恵み
5	11/12	船津 潤（商経学科）	税について考えよう
6	11/26	浅海 真弓（生活科学科）	洗濯の科学 - 洗剤の成分と働き -

第1回 小亀 拓也

【概要】

方言を手がかりに日本語の姿を捉え直すことを目的とし、「方言」と「標準語」に付与されてきた価値づけの差や、その形成に関わる国の言語施策を概説した。あわせて、「方言」「(全国)共通語」「標準語」という用語の位置づけを整理し、具体的な言語事例も参照しながら、主に音声と文法の観点から方言と標準語の特徴を比較した。こうした検討を通じて、「日本語」

と総称されるものの内側に豊かな多様性が認められることを示した。

【コメント】

多くのご質問やご意見をお寄せくださいました。大変熱心にご受講いただけたことに心より感謝申し上げます。

第2回 遠峯 伸一郎

【概要】

日本でも広く親しまれている、エリック・カー

ルの『はらべこあおむし』を題材に、日本語と英語の言語表現手法の違いを紹介した。日本語訳は物語世界に没入して言語表現が展開するのに対して、英語原作では物語世界から距離を取り、客観的に言語表現がされる。講座では、この対立を軸に『はらべこあおむし』の言語表現を詳説した後、市内近隣の標識など、身近に見られる例を取り上げて解説した。

【コメント】

英語の言語表現を取り上げたので、お聴きいただいた皆さんにご負担になった点もあったと思いますが、積極的な質問をいただき良い講座とすることができました。心より感謝申し上げます。

第3回 福田 忠弘

【概要】

今年、日本では戦後80年の節目の年になるが、ベトナム戦争にとっても戦後50年の節目の節目の年になる。ベトナム戦争の終結から50年経ち、当時は分からなかったことが現在では明らかになってきている。そうした点について紹介した。

【コメント】

若いころの報道等を思い出しながら聞かれてる方々もいたようで、よい機会を与えていただきありがとうございます。

第4回 古川 那由太

【概要】

酵母はパンやお酒等の発酵食品を作る微生物として広く知られているが、酵母が持つ栄養素やその効果についてはほとんど知られていない。そこで本講座では、酵母が持つ疲労回復効果や免疫力亢進効果、植物の生育促進効果等について解説するとともに、本学で新たに見いだされた「県短酵母」の特徴について紹介した。

【コメント】

とても熱心に話を聞いてくださり、とてもうれしかったです。質疑の中で私も教えていただくことが多く、「共育」を実感できる素晴らしい

経験となりました。

第5回 船津 潤

【概要】

税については、現在、税制改革が大きな議論を呼んでいます。その具体的に論点になっているテーマをいくつか挙げつつ、受講者の皆さんに考えを深めていただきながら、その背景にある思想や制度、そして理論的な考え方について解説しました。

【コメント】

税制は複雑なため、一般的な理解が深いとは言えず、2時間の講座は受講者の皆さんに大変な面もあったかと思いますが、非常に熱心に受講してくださり、積極的に発言もしていただけて、うれしい限りでした。

第6回 浅海 真弓

【概要】

洗濯用石けんや洗剤に含まれる成分とそれぞれの働きについて解説した。途中に簡単な実験を行い、蒸留水・水道水・硬水に石けんを入れたときに発生する石けんカスの違いや、界面活性剤の作用を実際に確認していただいた。最後に、漂白剤、蛍光増白剤配合洗剤、柔軟剤などの使い方や注意点についても説明した。

【コメント】

皆さん熱心に聞いてくださり、休憩時間や講座終了後にも多くの質問がありました。中には衣類のお手入れに関する相談もあり、解決につながりましたら幸いです。

【生涯学習の取り組み】

2025年度 鹿児島県立短期大学
奄美サテライト講座

商経学科 福田 忠弘

奄美サテライト講座は2025年度で12年目を迎えた。今年度は、「知を活かす 豊かな未来

を見据えて」のテーマで奄美大島で開催した。

9月6日（土）開催

時間	講師名（所属）	テーマ
13：00～14：30	福田忠弘（商経学科教授）	分断から統一へ ～ベトナム戦争50周年目に振り返る～
15：00～16：30	古川那由太（生活科学科助教）	美味しいだけじゃない！？ ～酵母がもたらす恵み～

第1講義 福田 忠弘

【概要】

今年、日本では戦後80年の節目の年になるが、ベトナム戦争にとっても戦後50年の節目の節目の年になる。最近、ベトナムで公開された資料などをもとに、ベトナム戦争を振り返った。特に、ベトナム戦争の一大転機になった「テト攻勢」に関して、ホー・チ・ミンが南ベトナム訪問を計画していたことを示す自筆の手紙などを紹介した。

第2講義 古川 那由太

【概要】

酵母はパンやお酒等の発酵食品を作る微生物として広く知られているが、酵母が持つ栄養素やその効果についてはほとんど知られていない。そこで本講座では、まず酵母について歴史をふまえて説明した後、酵母が持つ風味増強効果、疲労回復効果、免疫力亢進効果、植物の生育促進効果、油脂産生等について実例を挙げな

がら解説した。また最後には本学で新たに見いだされた「県短酵母」がもつ高いアルコール発酵能と乳酸発酵能について解説し、パンへの応用例を紹介した。

◇講座の最後にアンケート調査を実施し、9人から回答が得られた。以下ではアンケート結果のまとめを記す。

1. 今回の講座を知ったのは
 - ①短大のホームページ …… 0
 - ②新聞 …… 2
 - ③ポスター …… 1
 - ④知人から …… 2
 - ⑤その他 …… 4
2. 今回の講座は
 - ①よかった …… 6
 - ②ふつう …… 3
 - ③よくなかった …… 0

3. 今回のテーマは

- ①よかった …………… 7
- ②ふつう …………… 1
- ③よくなかった …………… 0
- ④未回答 …………… 1

4. 自由意見

- * 普段学びの機会が少ないので貴重な経験になった。
- * 普段口にする食物や食物に含まれる酵母が具体的にどのような効果があるか（美容など）もっとわかりやすければ（写真etc），女性や若い人も興味を持つと思う。
- * 自分で作る酵母とか奄美で作れる酵母の紹介とか…知りたかった。
- * 良い機会をいただきありがとうございました。もっと多くの人に聞いてもらいたかった。
- * 貴重なお話が聞けて，大変勉強になった。

【地域研究報告】

2025年度プロジェクト研究

【共同研究プロジェクト】

中小企業における経理業務のデジタル化対応とその課題分析

商経学科 宗田 健一

近年、ITやAI技術の進展が目覚ましく、営利・非営利を問わずデジタル技術の利用が盛んにおこなわれている。企業規模が小さく、人手不足に陥りやすい中小企業にとっては、デジタル技術の積極的な活用が労働生産性を向上させるためにも必須となってくると指摘できる。中小企業の経理業務では、デジタル化が進んでおり、インターネットバンキング、電子記録債権による管理コストの削減、会計ソフトの利用、クラウド管理、電子インボイスなどが進んでいる。

本稿では、中小企業のデジタル化対応の現状を把握するために、中小企業の特徴について、中小企業政策と各種統計データ、先行研究をもとに整理した。そして、中小企業における経理業務を中心にデジタル化対応をインボイス制度の導入と電子帳簿保存法の施行と関連付けながら考察することを目的とした。

実態を把握するために、鹿児島県中小企業家同友会の会員企業にご協力を頂き、アンケート調査を実施し、その結果を分析した。調査結果が広範囲にわたっていたため、まず、分析の基礎資料として次の通り、原稿をまとめて公開した。宗田健一「中小企業におけるインボイス制度・電子帳簿保存法への対応と経理業務の実態－鹿児島県中小企業家同友会へのアンケート調査結果を基礎として－」商経論叢』第76号、27-65頁。

【共同研究プロジェクト】

書面添付の実践が中小企業の経理業務に

与える影響の分析

商経学科 宗田 健一

令和4年税理士法改正により、税理士法第33条の2に規定する書面の名称の変更、記載事項の一部が改正されるとともに資産税に対応した様式が新設された。この制度改正は、書面添付制度が1956年3月の税理士法改正時に創設されて以来、数度改正された中でも、今後の制度運用に対して大きく影響を与える変化であると捉えられる。

重要な変更のうち、「申告書の作成に関し、計算し、整理し、又は相談に応じた事項の総合的な所見を記載してください。」は、税務調査・意見聴取・意見聴取後の調査移行に影響を及ぼすと考えられる。また、その前段階として、中小企業の経営者ないし経理担当者の日常業務に多大な影響を与えると考えられる。

書面添付制度の改定が中小企業の経理業務に影響を与えるとすれば、どのような影響が、どのように発現するのかに着目し、本研究では、書面添付制度の内容、税理士法、税理士業務、中小企業経営者の行動に着目して、調査分析を進めた。

TKC九州会の税理士を対象としたアンケート調査を実施し、回収した調査内容について、定性的、定量的な分析を進めた。研究成果は、中小企業会計学会第13回全国大会で報告するとともに、来年度、書籍として発刊を予定している。

【共同研究プロジェクト】

かごしま茶に関する基礎的研究

文学科 小亀 拓也

生活学科 木下 朋美

商経学科 福田 忠弘

令和6年度、鹿児島県は荒茶生産量27,000トンを記録し、全国シェア約36.5%で日本一を達成した。これは平坦な地形を活かした基盤整備、乗用型摘採機の導入による高度な機械化、そして多様な品種戦略が結実したものである。

65年以上トップを維持してきた静岡県を上回ったこの快挙は、まさに鹿児島県茶業界全体の努力の賜物である。

本研究では、後発産地である鹿児島県がいかにして伝統産地である静岡県を凌駕して行ったのかを明らかにすることを目的としている。鹿児島県茶業会議所、鹿児島県茶生産協会、鹿児島県茶商業協同組合などと協力して、これまでの特徴的な取組を整理する作業を進めている。同時に、地域と茶業の関わりについても焦点をあてている。さらに鹿児島県の土壌はシラス台地で有名である。このシラス台地を整備して、灌漑設備が導入されたからこそ、お茶の一大生産拠点になることができた。こうした社会資本整備についても研究の俎上に挙げている。

本研究の成果を、鹿児島県茶業界関係者と一緒に、『かごしま茶今昔物語』として書籍にまとめることを計画している。

【共同研究プロジェクト】

ヤクシカ肉のジビエとして品質に関する研究

生活科学科 中島 一喜

生活科学科 多田 司

屋久島には、ニホンジカの亜種であるヤクシカと呼ばれる小型種が生息している。現在、ヤクシカは生息数が増加する傾向であり、農作物ならびに森林生態系への被害が懸念されており、急速な対策が求められている。これらの被害の対策の一つとして捕獲によるヤクシカのジビエ化が推進されている。しかしながら、鹿児島本土のニホンジカのジビエと同様に、品質（肉質）の均一性に問題がある。日本ならびに鹿児島本土の鹿肉のジビエに関する食資源化に関する研究は、急速に進められているが、ヤクシカの生態、食性、食肉になるまでの生産過程ならびに栄養成分に関する調査ならびに研究は

十分にされていない。そこで、屋久島でのヤクシカに関する捕獲、食肉化までの工程を把握する必要があることから、昨年度、本プロジェクトを介して、ヤクシカのジビエ化の現状を調査した。その結果、ヤクシカ肉のジビエ化は十分でなく、ヤクシカ肉の食肉としての一般栄養成分ならびに特徴的な栄養成分が明らかでないため、科学的根拠を基にしたヤクシカ肉の普及が進んでいない現状が明らかになった。

そこで、本年度は、1年間を通してヤクシカ肉の一般栄養成分の分析を行うこととした。まず始めに6月から8月までの3ヶ月間に捕獲したヤクシカ肉のサンプリングを現地のジビエ肉加工会社の協力の下で行った。現在、それらの食肉の一般栄養成分分析を行っている。今後は9月から11月の3ヶ月間に捕獲したヤクシカ肉の分析結果も併せて、屋久島にて研究成果の報告をする予定である。

さらに、この調査結果を踏まえ、ヤクシカのジビエ化促進のために、食肉科学（生産ならびに食品化）的観点からニホンジカと比較検討する計画である。

本研究で得られた結果は、ヤクシカ肉のジビエの品質（均一化）に関する研究の推進に貢献していくものと考えられる。また、応用研究として、生産現場との協力ならびに産学官の連携により、ヤクシカ肉のジビエとしての消費拡大の発展に貢献できると考えられる。

【個人プロジェクト】

全国および旭川における障害児の普通就学状況およびその教育内容

商経学科 田口 康明

本研究テーマにおいて、北海道旭川市と埼玉県さいたま市において調査を行った。10月に旭川において、重度知的障害とされるTさんの普通中学校・定時制普通高校での学校生活の様子について保護者、支えた市民、市議らから聞き取り調査を行った。あわせて、シンポジウム形式の座談会に出席し、私見を述べた。

また、11月には、「第22回 障害児を普通学校へ・全国連絡会全国交流集会 in 埼玉」に報告者として「合理的配慮」について述べた。「合理的配慮」が、同じ場での平等のスタートラインを示すだけでは、そこを基盤とする「能力」の獲得するための競争を子どもたちに保障するだけにすぎない。同じ場で学校教育法などの教育法が定める教科等の目的・目標である学習能力を身につけることを保障することが「合理的配慮」の目的なのではなく、ともに生きる権利を保障するためのものでもあることを示した。そのほか、参加者から全国状況等について情報をえた。

これらを参考にして論考をまとめていきたい。

【個人プロジェクト】

奄美大島・泥染めによる美術作品の制作

生活科学科 北 一浩

大島紬の工程の一つである泥染めを利用した美術作品の制作を数年にわたって取り組んでいる中、今年度は大きく二つの成果を得ることができた。

平成28年度から3年に1回開催されている現代アートの国際コンクール「第4回枕崎国際芸術賞展」にて入賞を果たした。同展は国内外から834作品の応募があり、入賞・入選に選ばれた81作品が展示された。奄美大島・泥染めによる作品が、現代アートとして一定の評価を得たものと考えられる。

二つ目は、現代美術家・村上隆氏がオーナーを務めるKaikai Kiki Gallery（東京・元麻布）にて開催された「大唐津展」に出展を行った。佐賀県唐津で活動する陶芸家・水谷渉氏を代表に、全国の作家が参加する作品展であり、それぞれの作家が「唐津」という土地と向き合い、素材や歴史を手がかりに陶芸史の中での唐津に新たな視点を加えることを目的としている。奄美大島・泥染めの技法を転用し、全て唐津の素材にて新たな泥染めを展開できたことが特筆すべき点として挙げられる。

それなりの期間、奄美大島・泥染めによる制作に取り組んできているが、自身の予想を超える結果と展開を感じることができた一年となった。これに満足せず、引き続き今後もこの活動を継続していこうと思う。



第4回枕崎国際芸術賞展 2025/7/21 - 9/15 枕崎市文化資料センター南浜館

【研究・社会活動報告】

鹿児島県立短期大学教員 研究・社会活動報告一覧

2025年1月～2025年12月

飯干 明 (学長)

学術論文

1. 「女子棒高跳競技者におけるグリップ高と抜きの高さを手がかりにした跳躍記録の分類とその特徴」, 共著 (青柳 唯, 金高宏文, 森 司朗, 井福裕俊, 飯干 明), 「鹿屋体育大学学術紀要」, 63号, 2025年11月, pp.63-76.

その他 (コラム)

1. 南の風「時代の要請に応える地域人材の育成」, 単著, KER, 第424号, 2025年7月, pp.2.

学会活動

- ・日本体育・スポーツ・健康学会, 1976年4月～現在
- ・日本体力医学会, 1978年3月～現在
- ・九州体育・スポーツ学会, 1979年9月～現在
- ・日本スポーツ運動学会, 1988年4月～現在
- ・日本発育発達学会, 2002年10月～現在
- ・日本スポーツパフォーマンス学会, 2023年7月～現在

社会活動

1. 鹿児島県陸上競技協会評議員. 2014年～2025年
2. 公益財団法人かぎん文化財団選考委員. 2015年～2025年
3. 鹿児島ユネスコ協会顧問. 2022年～現在
4. 鹿児島県育英財団評議員. 2022年～現在
5. 公益財団法人大学基準協会短期大学認証評価委員会委員. 2023年～2025年
6. 壽崎育英財団評議員. 2023年～現在
7. 公益財団法人上野カネ奨学会評議員. 2025年～現在

*** 文学科 日本語日本文学専攻 ***

木戸 裕子 教授

学術論文

1. 「山下道代と鹿児島県立女子専門学校」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』第75号, 2025年3月, 一～一三頁

学会活動

- ・和漢比較文学会1986年5月～現在。同常任理事 2011年10月～現在。同西部例会委員会委員長 2021年10月～2025年9月。同編集委員会副委員長 2025年10月～現在。
- ・中古文学会, 1986年5月～現在。
- ・説話文学会, 2005年6月～現在。
- ・西日本国語国文学会, 1988年9月～現在。

社会還元

1. 講師: 「講師: 「栄花物語を読む」, 金曜会 (読書会) 於: 鹿児島青年会館艸舎 2022年9月～現在
2. 講師: 「紫式部日記を読む」, 鹿児島読書サークル, 於: 鹿児島市教育総合センター, 2025年10月10日

社会活動

1. 2023年11月～現在 鹿児島市文化財審議会委員

小亀 拓也 講師

研究ノート

1. 「文成立論研究史抄 (その1)」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』75, pp.39-53.

学会活動

- ・日本語学会, 2019年5月～
- ・日本語文法学会, 2019年7月～
- ・日本語学会, 2019年7月～
- ・西日本国語国文学会, 2022年8月～
- ・表現学会, 2023年3月～

社会還元

1. 講師：「助詞・助動詞の多義①」, 鹿児島読書サークル, 於：鹿児島市教育総合センター, 2025年6月13日
2. 講師：「逸脱表現を通して考える文法」, 鹿児島読書サークル, 於：鹿児島市教育総合センター, 2025年8月29日
3. 講師：「方言の世界」, 伊敷公民館講座, 於：伊敷公民館, 2025年10月15日

竹本 寛秋 教授

学術論文

1. 「現行の学習指導要領の問題点の整理から」, 単著, 『近代文学論集』, 第50号, 2025年3月, pp.19-25.
2. 「山村暮鳥の童謡における「語り」の問題」, 単著, 『雲』, 第30号, 2025年9月, pp.3-10.

書評

1. 「書評 安智史『萩原朔太郎と詩的言語の近代 江戸川乱歩, 丸山薫, 中原中也, 四季派, 民衆史派など』」, 単著, 『昭和文学研究』, 第90集, 2025年3月, pp.307-309.

学会発表(口頭)

1. 「60年代の詩をめぐる状況と「バム・アカデミー」, 「部族」」, 単独, 2025年度日本近代文学会九州支部春季大会, 於：山口大学, 2025年6月28日
2. 「日本における「ビート・ジェネレーション」と「アメリカ」」, シンポジウム「日本戦後詩とアメリカー翻訳・抵抗・文化規範」(田口麻奈, 逆井聡人, 竹本寛秋), 第63回日本比較文学会東京支部大会, 於：順天堂大学, 2025年11月1日

その他(データベース公開)

1. 国文学研究資料館データベースにて, 「暮鳥会」所蔵「山村暮鳥自筆資料」のデジタル画像公開(データベース整理, 撮影画像の提供), 2025年5月(2025年6月18日『上毛新聞』にて「暮鳥の資料4000枚公開」として報道される)

その他(研究助成)

1. 「生態系と共同体をめぐる思想と表現に関する研究—山尾三省を中心として」, 科学研究補助金, 基盤研究C(研究代表者), 2022～2027年度

学会活動

- ・北大国語国文学会, 1996年4月～ 評議員
- ・日本近代文学会, 1996年4月～ 日本近代文学会九州支部 運営委員, 2025年11月8～9日 日本近代文学会九州支部秋季大会の運営
- ・日本文学協会, 1996年4月～
- ・西日本国語国文学会, 2024年10月～2025年9月 支部委員, 2024年10月～ 編集委員
- ・日本比較文学会, 2009年4月～
- ・昭和文学会, 1996年4月～
- ・暮鳥会, 2007年4月～ 幹事
- ・中原中也の会, 2015年10月～
- ・山尾三省記念会, 2022年4月～

社会還元

1. 講師
「日本の詩のさまざま」, 鹿児島読書サークル, 於：鹿児島市教育総合センター, 2025年4月11日
2. 講師
「日本近代詩のなかの「恋愛」と「結婚」」, 鹿児島読書サークル, 於：鹿児島市教育総合センター, 2025年7月11日
3. 講師
「「ものがたり」の読み方をアップデートする」, 鹿児島県立短期大学オープンキャンパスミニ講義, 於：鹿児島県立短期大学, 2025年7月19日
4. 講師
「60年代詩の状況と山尾三省の出發について」, 山尾三省記念会, 於：白川山やまびこ

館, 2025年8月28日

5. 講師

「唱歌・童謡をかながえる」, 附属図書館 金曜講演会, 於: 鹿児島県立短期大学附属図書館, 2025年10月31日

社会活動

1. 2025年10月11日, 鹿児島県高等学校文化連盟弁論大会審査員, 於: サンエールかごしま

土肥 克己 教授

学術論文

1. 「宋元時代の唱賺と套数に共通する音楽的特徴」, 単著, 『響きあう文学』, 汲古書院, 2025年10月, pp.63-83

社会活動

1. 「第30回外国人による日本語スピーチコンテスト」本選審査員, 於: かごしま県民交流センター, 2025年1月25日

楊 虹 教授

学術論文

1. 「SNSチャットの会話における話題管理の日中対照 - 話題の輻輳に注目して -」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』 75, pp.1-20

学会発表(口頭)

1. 「SNSチャットにおける感情表出の日中対照」, 倉田芳弥・楊虹・スケンデル=リザトビッチ・マーヤ, 第28回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム, (@キール大学, 2025年8月29日)

学会活動

- ・日本語教育学会, 国際連携委員 (2025年6月まで)
- ・学会誌『社会言語科学会』『語用論研究』査読協力

社会還元

1. 講師: 鹿児島市国際交流センター「日本語支援ボランティア養成講座」(2025年2月1日, 8日, 15日, 22日, 3月8日)

*** 文学科 英語英文学専攻 ***

石井 英里子 准教授

ガルシア・アロヨ ホルヘ 准教授

学術論文

1. 『Dragon Ball, A Legend That Goes Beyond Borders. An Analysis of The Cultural Impact of Akira Toriyama's Masterpiece in The West』, 単著(ホルヘガルシア・アロヨ), 『鹿児島県立短期大学紀要』, 第76号

学会活動

- ・日本アメリカ文学会, 2016年4月~, 会員
- ・日本ヘミンウエイ協会, 2023年4月~, 会員

社会還元

1. 講師: 「アメリカ理想における大衆文化キャラクター」, 出張講義, 於: 鹿児島県立加世田高校, 2025年7月25日
2. 講師: 「マンガとアニメ: 日本で生まれたグローバル文化」, 集中講義「人間と文化」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2025年9月12日

小林 朋子 教授

学会活動

- ・日本アメリカ文学会, 2006年~, 会員
- ・日本英文学会, 2006年~, 会員(2023年4月~九州支部事務局書記)
- ・鹿児島英語英文学会, 2006年~, 会員
- ・多民族研究学会, 2011年~, 会員(2019年8月~大会運営委員)
- ・原爆文学研究会, 2019年~2022年, 会員

社会還元

1. 講師: 「『この世界の片隅に』と『父と暮せば』 - 記憶・歴史・文学」, 鹿児島読書サークル, 於: 鹿児島市教育総合センター, 2025年3月21日

社会活動

1. 玉江小学校学校運営協議会委員, 2023年度~

遠峯 伸一郎 教授

書評

- 『近代英語における文法的・構文的变化』（秋元実治編 片見彰夫・福元広二・田辺春美・山本史歩子・中山匡美・川端朋広・秋元実治著），『英文学研究』，第102巻，230～235。

学会活動

- ・日本英語学会，1995年～，会員
- ・近代英語協会，1997年～，会員
- ・日本英文学会，2025年～，会員

社会還元

- 講師：「絵本の英語」，伊敷公民館講座，於：伊敷公民館，2025年10月22日

野田 ゆり子 助教

著書

- 東雅夫，下楠昌哉編著，『幻想と怪奇の英文学V：関西疾風編』，春風社，共著，2025年10月，414総頁，担当箇所：「反転する別世界：C. S. ルイスの『魔術師のおい』とスザンナ・クラークの『ピラネージ』における対照的な他者性」，pp.321-42。

学会活動

- ・同志社大学英文学会，2015年4月～，同志社大学英文学会委員，2025年度年次大会準備委員
- ・日本英文学会，2017年4月～，会員
- ・日本キリスト教文学会，2018年4月～，会員
- ・英語圏児童文学会，2018年4月～，会員

社会還元

- 講師「魔法の森の子どもたち：C. S. ルイスの創作論」，鹿児島県立短期大学附属図書館金曜講演会，於：鹿児島県立短期大学附属図書館，2025年11月14日

米村 大輔 講師

学会発表（口頭）

- 「タブレットPCを使用した「主体的・対話

的で深い学び」の視点からの小・中学校の英語教育方法論 - 学校教育における英語指導の変化-デジタルツールと紙媒体の最適な共存」，共同，（高橋美由紀，米村大輔，清水万里子，市川裕理，西尾由里，森直樹），第54回中部英語教育学会山梨大会，山梨大学，2025年6月21日

その他（研究・調査協力）

- ・中部地区英語教育学会 課題研究プロジェクト

学会活動

- ・中部地区英語教育学会，2016年4月～
- ・全国英語教育学会，2016年4月～
- ・NPO The Japan Association for Language Teaching，2016年4月～

*** 生活科学科 食物栄養専攻 ***

有村 恵美 准教授

学術論文

- 「火山性蒸気カマド「スメ」における蓋の違いがテクスチャーに与える影響」，共著，（〇中熊美和，牛山紗稀子，有村恵美），『鹿児島県立短期大学紀要 自然科学編』，第75号，2024年12月，pp.1-9。
- 「給食管理実習に関する意識調査～校外実習自己評価の検討～」，共著，（〇有村恵美，牛山紗稀子，中熊美和），『日本食生活研究』，45（4），2025年7月，pp.294-303。（査読有）

リーフレット

- 「Stop the 大腸がん～栄養・食生活～」，単著，，栄研化学株式会社「クリニカルシリーズ No16」，2025年1月。

その他（研究助成等）

- 調査協力：垂水元気プロジェクト調査チーム，2021年～

招聘学会発表

- 「地域における日本食と臨床～糖尿病・糖尿病腎症発症進展予防を目指して～」，単

独, 第47回日本臨床栄養学会総会 第46回日本臨床栄養協会総会 第23回大連合大会, 於, 城山ホテル鹿児島, 2025年10月25, 26日, 第47回日本臨床栄養学会総会 第46回日本臨床栄養協会総会 第23回大連合大会抄録集, p.151

学会発表

1. 「給食を通じた「さつまスピリッツ」の醸成：効率の良い情報伝達を考える」, 共同, (○堀内正久, 牛飼美晴, 松山史香, 牛山紗稀子, 有村恵美), 鹿児島県農村医学研究会総会 第56回中央研究集会, 於, 鹿児島厚生連病院, 2025年8月21日

学会活動

- ・日本病態栄養学会, 2002年6月～, 代議員 (2019年4月～), 学術評議員 (2020年1月～)
- ・日本糖尿病・妊娠学会, 2004年12月～
- ・日本腎臓学会, 2006年9月～
- ・日本糖尿病学会, 2007年5月～
- ・日本衛生学会, 2009年12月～
- ・日本糖尿病性腎症研究会, 2009年12月～
- ・日本CKDチーム医療研究会, 2010年10月～, 幹事 (2011年10月～)
- ・日本糖尿病合併症学会, 2012年9月～
- ・日本産業衛生学会, 2014年12月～
- ・第47回日本臨床栄養学会総会 第46回日本臨床栄養協会総会 第23回大連合大会運営協力, 2025年10月25, 26日

社会還元

1. 情報提供: 「鹿児島観光ナビ (モデルコース) さつまビタミンロード」, 鹿児島市観光コンベンション協会HP, 2023年1月～
2. イベント協力: 「世界腎臓デー in かがしまイベント (CKD予防講演会)」, 於: かがしま中央公民館, 2025年3月15日
3. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「和食の知らない世界」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2025年5月
4. 指導者: 「口と歯の健康週間」, 於: アミュプラザ広場, 2025年6月8日

5. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「彩り野菜の饗宴」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2025年7月
6. 講師: 「未来を守る～栄養士の仕事」, 2025年度 鹿児島県立短期大学夏のオープンキャンパス模擬授業, 於: 鹿児島県立短期大学, 2025年7月19日
7. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「おさかなキッチン」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2025年9月
8. リカレント教育: 「管理栄養士国家試験対策勉強会」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2025年9月～
9. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画: 「陽だまり超簡単中華料理レシピ～ビタミンDで体もこころもほかほかに」, 於: 鹿児島県庁食堂, 2025年11月
10. 審査委員: 「第22回森のごちそうコンクール審査員 (鹿児島県, 鹿児島県竹産業振興会連合会, 鹿児島県椎茸農業協同組合)」, (書類審査: 鹿児島県庁) (実演審査: 今村ライセンスアカデミー)」, 2025年10月2日, 2025年11月15日
11. イベント支援・マスコミ報道: 「振興会後援県短75周年75円朝食」, 於: 鹿児島県立短期大学 給食実習室・喫食室, 2025年11月26日, MBC 2025年11月26日, KKB 2025年11月26日, KYT 2025年11月26日, 南日本新聞 2025年11月27日掲載

社会活動

1. 2013年7月～2025年3月, 鹿児島市慢性腎疾患 (CKD) 予防ネットワーク事業オプザーバー
2. 2013年12月～2025年3月, 鹿児島市世界腎臓デー ワーキング委員
3. 2024年4月～2025年3月, 始良市給食施設選定委員会 委員
4. 2025年10月～, 「他大学研究報告」査読

牛山 紗稀子 助教

論文

1. 「火山性蒸気カマド「スメ」における蓋の違いがテクスチャーに与える影響」, 共著, (○中熊美和, 牛山紗稀子, 有村恵美), 『鹿児島県立短期大学紀要』, 第75巻, 2024年12月, pp.1-9
2. 「給食管理実習に関する意識調査～校外実習自己評価の検討～」, 共著, (○有村恵美, 牛山紗稀子, 中熊美和), 『日本食生活研究』, 45(4), 2025年7月, pp.294-303 (査読有)

学会発表

1. 「給食を通じた「さつまスピリッツ」の醸成：効率の良い情報伝達を考える」, 共同 (○堀内正久, 牛飼美晴, 松山吏香, 牛山紗稀子, 有村恵美), 鹿児島県農村医学研究会総会 第56回中央研究集会, 於, 鹿児島厚生連病院, 2025年8月21日

その他 (研究助成等)

1. 調査協力：垂水元気プロジェクト調査チーム, 2025年～

学会活動

- ・日本栄養治療学会, 2025年12月～

社会還元

1. RD's Kitchen～メニューをどうぞ～ 凍結合浸食, ヘルスケアレストラン1月号2024年12月20日発行掲載
2. イベント支援・マスコミ報道：「振興会後援県短75周年75円朝食」, 於：鹿児島県立短期大学 給食実習室・喫食室, 2025年11月26日, MBC 2025年11月26日, KKB 2025年11月26日, KYT 2025年11月26日, 南日本新聞 2025年11月27日掲載
3. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画：「和食の知らない世界」, 於：鹿児島県庁食堂, 2025年5月
4. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画：「彩り野菜の饗宴」, 於：鹿児島県庁食堂, 2025年7月
5. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画：「おさかなキッチン」, 於：鹿児島県庁食堂, 2025年9月

6. 学生ポスター掲載支援, 掲載計画：「陽だまり超簡単中華料理レシピービタミンDで体もこころもぽかぽかに」, 於：鹿児島県庁食堂, 2025年11月

木下 朋美 助教

学術論文

1. 「『茶業鹿児島』 -昭和30年代から40年代のかごしま茶-」, 共著 (木下朋美, 本田咲美), 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』, 第56巻, 2025年3月, pp.27-38.
2. 「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究 九州・沖縄のご飯のおかず：味噌・漬物(発酵食品)」, 共著 (熊谷奈々, 西岡征子, 富永美穂子, 中嶋名菜, 望月美左子, 篠原久枝, 木下朋美, 田原美和), 『日本調理科学会誌』, 第58巻, 第4号, 2025年8月, pp.217-221.

学会発表

1. 「アボカドリーフを利用した茶の製造試験 -廃棄部位を活用した機能性食品の開発-」, 単独, 日本家政学会九州支部第69回大会, 於：長崎大学, 2025年10月4日, 日本家政学会九州支部第69回大会研究発表会要旨集, p.12.
2. 「「やぶきた」二番茶芽におけるチャノミドリヒメヨコバイによる被害程度と香気成分ジオール (diol) との関係」, 共同 (小澤朗人, 外側正之, 内山 徹, 村上源太, 片井秀幸, 木下朋美, 水上裕造), 日本茶業学会2025年度研究発表会, 於：静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ, 2025年10月22日, 日本茶業学会2025年度研究発表会要旨集, p.33.

学会活動

- ・日本家政学会
- ・日本調理科学会
- ・日本調理科学会九州支部常任幹事 (2025年4月～)

- ・日本茶業学会
- ・鹿児島県茶業技術協会

社会還元

- 産学連携学生指導・マスコミ報道：「荒茶生産量日本一記念かごしま茶カフェトラム」の主催，於：鹿児島市交通局，2025年3月1日（KKB 2025年3月1日放送，南日本新聞2025年3月2日掲載，読売新聞2025年3月2日掲載，日本農業新聞2025年3月6日掲載，共同通信社2025年5月配信・全国各地17紙に掲載）
- 産学連携学生指導・マスコミ報道：お茶の里開設10周年イベントでの「はんず茶継承活動・試飲会」，於：都市農村交流センターお茶の里，2025年3月16日（KTS「かごんま未来ノート」取材2025年4月2日放映）
- 講師：「お茶講座および調理実習」，於：鹿児島県立鹿児島水産高等学校，2025年3月19日
- 講師（オンデマンド授業）：「The history of Japanese tea」，於：Jeju National University，2025年3月25日
- 産学連携学生指導・マスコミ報道：かごしま茶日本一達成記念感謝祭での「はんず茶継承活動・試飲会」，於：アミュ広場，2025年3月29日（南日本新聞インタビュー2025年4月5日掲載）
- 産学連携学生指導・マスコミ報道：はんず茶の製造体験および試飲会の開催，於：おいどん市場与次郎館，2025年5月4日（KKB 2025年5月4日放送，南日本新聞2025年5月5日掲載，読売新聞2025年5月10日掲載）
- TV出演：KTSナマ・イキVOICE「お茶に恋してる」，2025年5月10日放映
- TV生出演：NHK鹿児島放送局「情報WAVEかごしま 哲也の部屋」，2025年5月21日放映
- 産学連携学生指導：お茶の里新茶まつりでの「はんず茶の製造体験および試飲会」の開催，於：都市農村交流センターお茶の里，2025年5月25日
- 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「和食の知らない世界」，於：鹿児島県庁食堂，2025年5月
- 講師：「お茶を知ろう！お茶入りドライカレー作り」，かごしま環境未来館主催学習講座，於：かごしま環境未来館，2025年6月14日
- 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「彩り野菜の饗宴」，於：鹿児島県庁食堂，2025年7月
- 記事監修・情報提供：「茶いっぺ飲んでいっきゃんせ」，かごしま環境未来館発行，かごしま環境未来館だより69号，pp.4-5. 2025年8月
- 審査員：日本茶AWARD2025，「烏龍茶部門」一次審査および講評，二次審査（於：鹿児島茶流通センター，2025年8月31日）担当
- 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「おさかなキッチン」，於：鹿児島県庁食堂，2025年9月
- 運営協力：「九州かごしまお茶大学」，於：鹿児島女子短期大学，2025年9月16日
- ラジオ生出演：「かごしま茶」，於：あいらびゅーFM，2025年9月23日
- 調査協力：「垂水元気プロジェクト」，於：垂水市市民館，2025年9月28日
- 審査員・マスコミ報道：「かごしま茶アイデアレシピコンテスト2025」，於：鹿児島茶流通センター，2025年10月7日（南日本新聞2025年10月8日掲載）
- 産学連携学生指導・マスコミ報道：環境フェスタかごしま2025出展，於：かごしま環境未来館，2025年10月18日（南日本新聞2025年10月28日，日本農業新聞11月15日掲載）
- 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「陽だまり超簡単中華料理レシピービタミンDで体もこころもほかほかに」，於：鹿児島県

- 庁食堂，2025年11月
22. 原稿掲載：「荒茶生産量1位の鹿児島県，多様な品種でニーズに対応」，日本伝統文化検定週刊メールマガジン「伝検通信」第83号，時事通信社，2025年11月20日発行
 23. 産学連携学生指導・マスコミ報道：かごしまお茶マルシェ2025出店，於：アミュ広場，2025年11月29日（南日本新聞2025年11月30日掲載）
 24. 講師：「鹿児島県の茶業について」，鹿児島県鹿児島県農政部農政課かごしまの食輸出・ブランド戦略室食の安全推進係主催南薩視察バスツアー，2025年12月8日

社会活動

1. 2005年4月～現在，NPO現代喫茶人の会，理事
2. 2013年4月～現在，お茶料理研究会，世話人
3. 2016年10月～現在，鹿児島県茶業会議所，かごしま茶販路拡大対策等活動助成
4. 2019年1月～現在，鹿児島市農業振興協議会，委員
5. 2020年6月～現在，鹿児島県茶生産協会，茶業経営向上活動事業

多田 司 教授

学会活動

- ・日本栄養・食糧学会，1996年4月～，正会員
- ・日本農芸化学会，1998年4月～，正会員

社会活動

1. 2024年4月～2025年3月，公益財団法人大学基準協会，短期大学認証評価，2024年度短期大学評価委員会短期大学評価分科会委員

中熊 美和 助教

学術論文

1. 「火山性蒸気カマド「スメ」における蓋の違いがテクスチャーに与える影響」，共著，（○中熊美和，牛山紗稀子，有村恵美），『鹿児島県立短期大学紀要』，第75

巻，2024年12月，pp.1-9

2. 「給食管理実習に関する意識調査～校外実習自己評価の検討～」，共著，（○有村恵美，牛山紗稀子，中熊美和），『日本食生活研究』，45(4)，2025年7月，pp.294-303（査読有）

その他（調査協力）

1. 調査協力，垂水元気プロジェクト調査チーム，2022年～

学会活動

- ・日本病態栄養学会，2012年12月～
- ・日本栄養治療学会，2015年2月～
- ・日本給食経営管理学会，2016年10月～
- ・美味技術学会，2020年6月～
- ・日本食生活学会，2022年7月～

社会還元

1. イベント支援，「令和6年度山川高校生によるスメ体験プログラム」，JAいぶすきなのはな 2025年2月号，vol306，pp.8
2. リカレント教育支援，「管理栄養士国家試験対策勉強会」，於：鹿児島県立短期大学，2025.9～
3. イベント支援・マスコミ報道，「振興会後援県短75周年75円朝食」，於：鹿児島県立短期大学 給食実習室・喫食室，2025年11月26日，MBC 2025年11月26日，KKB 2025年11月26日，KYT 2025年11月26日，南日本新聞 2025年11月27日掲載
4. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「和食の知らない世界」，於：鹿児島県庁食堂，2025年5月
5. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「彩り野菜の饗宴」，於：鹿児島県庁食堂，2025年7月
6. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「おさかなキッチン」，於：鹿児島県庁食堂，2025年9月
7. 学生ポスター掲載支援，掲載計画：「陽だまり超簡単中華料理レシピービタミンDで体もこころもほかほかに」，於：鹿児島県庁食堂，2025年11月

社会活動

1. 2025年8月～，鹿児島市CKDネットワーク事業オブザーバー

中島 一喜 教授

学会発表（口頭）

1. 「初期成長期の増体量が異なる肉用鶏のむね肉中遊離アミノ酸濃度および官能特性の比較」共著，（○島元紗希，岩井祐樹，齋藤花菜，井尻大地，藤村忍，中島一喜，勝俣沙智，上村美優，大塚彰）『日本畜産学会第133会大会 岐阜大学』2025年9月，p.184

学会活動

- ・日本畜産学会機関誌編集委員会委員

社会還元

1. 講師：「食品成分の機能について」，鹿児島県立短期大学秋のオープンキャンパス模擬授業，於：鹿児島県立短期大学，2025年11月23日

中西 智美 准教授

学術論文

1. 「学校における食育および栄養教諭による指導を受けた経験が短大生の食意識・実態に及ぼす影響」，共著，（○児玉むつみ，榊順子，中西智美，土元麻未，吉田三千代，鎌田理恵，小野真優子，坂中律子，山下由紀子，宮崎律子，中馬和代，金田雅代，饗場直美），『栄養教諭食育研究会誌』，第9号，2025年11月，pp.7-13.

学会発表（口頭）

1. 「小・中学校での食育の経験による短期大学生の食意識と栄養素等摂取状況との関連」，共同，（○中西智美，児玉むつみ，榊順子，中馬和代，金田雅代，饗場直美他6人），第72回日本栄養改善学会学術総会，口頭発表，於：東京農業大学世田谷キャンパス，2025年9月14日，第72回日本栄養改善学会学術総会講演要旨，p.254

研究大会発表

1. 「学校における食育および栄養教諭による指導を受けた経験が短大生の食意識・実態に及ぼす影響」，共同，（○児玉むつみ，榊順子，中西智美，土元麻未，吉田三千代，鎌田理恵，小野真優子，坂中律子，山下由紀子，宮崎律子，中馬和代，金田雅代，饗場直美），第9回栄養教諭食育研究大会，口頭発表，於：彦根市ひこね市文化プラザ，2025年11月2日，『栄養教諭食育研究会誌』，第9号，2025年11月，pp.7-13.
2. 「咀嚼回数計測を目的としたスマートフォンアプリケーションの開発」，共同，（○佐藤秀夫，山本祐士，高木良平，宮澤賢悟，植村宗則，中西智美，佐藤真紀子，山座治義），第10回日本歯科人工知能（AI）研究会，於：岐阜市じゅうろくプラザ，2025年8月24日

その他

1. 共同研究者，科学研究費基盤研究(C)日本学術振興会「栄養教諭の学校給食を教材とする食育の実践状況と効果的な展開法についての研究」，2022-04-01～2025-03-31

学会活動

- ・日本栄養改善学会，2016年3月～
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会，2023年3月～
- ・小児歯科学会，2025年4月～
- ・鹿児島農村医学研究会，2024年4月～，幹事（2024年4月～）
- ・鹿児島県小児保健学会，2013年8月～，理事（2024年8月～）
- ・栄養教諭食育研究会，2015年4月～

社会還元

1. 講師：令和7年度鹿児島県栄養教諭ステップアップ研修（5年目経験者研修），於：鹿児島県総合教育センター，「学校給食における栄養管理」，2025年7月3日
2. 講師：令和7年度鹿児島県特別支援学校教員対象摂食指導研修会，於：鹿児島県立鹿

児島特別支援学校, 「摂食指導における学校給食の役割と食形態への配慮」, 研修会(対面) 2025年7月29日, オンデマンド研修2025年8月16日～8月29日

3. 座長(一般口演): 鹿児島農村医学研究会第56回中央研究集会, 於: 鹿児島厚生連病院, 2025年8月21日
4. 指導者: 令和7年度鹿児島県立中種子特別支援学校二次調理における栄養教諭派遣指導, 県教育委員会保健体育課, 於: 鹿児島県立中種子特別支援学校, 2021年4月～現在
5. 講師: 令和7年度鹿児島大学歯学部「多職種・地域連携」, 於: 鹿児島大学歯学部, 「特別支援学校における摂食指導の実際」, 2025年11月15日

社会活動

1. 鹿児島県学校給食会評議員(2024年5月～)

その他

1. 情報提供: 「そよかぜ」かごしま子ども在宅療養ナビ【子どものケア(発達嚥下調整食)】, 鹿児島県くらし保健福祉部子ども家庭課HP, 2023年3月～
2. 調査協力: 「垂水元気プロジェクト調査チーム」, 於: 垂水市, 2025年6月15日
3. 交流授業: 鹿児島市立玉江小学校6年生「鹿児島の郷土料理及び郷土菓子について」, 於: 鹿児島市立玉江小学校, (食育指導) 2025年1月22日, (報告会) 2025年2月13日
4. 交流給食: 鹿児島市立玉江小学校4年生～6年生「給食時間における食に関する指導」, 於: 鹿児島市立玉江小学校, 2025年11月17日

浜田 幸史 教授

学会発表(口頭)

1. 「中学校の部活動における部の収支及び家庭の支出に関する研究」, 共同, 吉野全洋, 浜田幸史, 齋藤勇, 関朋昭, 日本部活

動学会第7回大会, 2025年3月8日

その他(研究助成)

1. 「中・高等学校体育分野・科目体育「体育理論」授業モデルの開発と実践を通じた効果検証」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022～2025年度
2. 「多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化」スポーツ庁委託事業 令和の日本型学校体育構築支援事業 2025年度

学会活動

- ・日本体育・スポーツ・健康学会, 2020年9月～現在
- ・日本体育科教育学会, 2020年9月～現在
- ・九州体育・スポーツ学会, 2020年9月～現在
- ・日本部活動学会, 2022年1月～現在
- ・日本バレーボール学会, 2022年5月～現在

社会還元

1. 指導助言: 「器械運動の授業づくりについて」, 鹿児島大学教育学部附属小学校体育科研究授業, 於: 鹿児島大学教育学部附属小学校, 2025年2月20日
2. 指導助言: 「球技ネット型の授業づくりについて」, 鹿児島大学教育学部附属中学校保健体育科研究授業, 於: 鹿児島大学教育学部附属中学校, 2025年2月21日
3. 講師: 「体づくり運動・器械運動の授業づくりについて」, 大隅地区体育・保健体育研究会, 於: 鹿屋市立鹿屋小学校, 2025年2月27日
4. 講師: 「球技ネット型ソフトバレーボール・バレーボールの授業づくりについて」, 大隅地区体育・保健体育研究会, 於: 鹿屋市立鹿屋小学校, 2025年6月5日
5. 取材協力: 特集「どうなる部活 鹿児島の現在地」, 南日本新聞, 2025年6月25～29日
6. 講師: 「部活動指導員の資質向上と指導力の向上 これからの指導の在り方」, 大崎町部活動指導員研修会, 於: 大崎町中央公民館, 2025年7月1日
7. 講師: 「学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価」, 【大学連携】【リカレント】

中高保健体育授業づくり講座，鹿児島県総合体育センター，2025年8月7日

8. 講師：「地域展開の国・県の動向と主体的に活動させる指導の在り方 これからの指導の在り方」，志布志市部活動地域移行推進協議会・志布志市部活動指導者等研修会，於：志布志市文化会館，2025年8月20日
9. 講師：「学校部活動地域移行の現状と課題」，鹿児島県スポーツ少年団指導者協議会サポーター会研修会，鴨池公民館，2025年8月24日
10. 講師：「へき地・複式・小規模校における体育授業の充実」，志布志市小学校体育主任等研修会，於：志布志市立森山小学校，2025年9月18日
11. 指導助言：「学習指導要領に対応した単元計画の作成とそれに基づく指導の在り方，地域の指導者と保健体育担当教員が連携した指導の在り方」，「運動大好き“かごしまっ子”育成推進事業（中学校武道等授業への地域指導者派遣）に係る地域連携実践校訪問，於：鹿屋市立輝北中学校，2025年12月18日

社会活動

1. 鹿屋市バレーボール協会指導普及委員，2021年4月～現在
2. 大隅地区体育・保健体育研究会代表，2022年4月～現在
3. 鹿屋市部活動地域移行推進協議会委員，2022年12月～現在
4. 鹿屋市教育委員，2023年2月～現在
5. 大崎町部活動地域移行検討委員会委員，2023年6月～現在
6. 鹿児島市立伊敷中学校学校運営協議会委員，2024年4月～現在
7. 九州地区大学体育連合理事，2024年4月～現在
8. 鹿児島市立学校プール共用化等検討委員会委員長，2024年5月～現在
9. 鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会

委員長，2024年5月～現在

10. 鹿児島県体力向上検討委員会委員，2024年6月～現在
11. 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業協力者会議委員長，2024年6月～現在
12. 鹿児島市学校部活動地域連携等推進協議会運動部活動分科会座長，2024年8月～現在
13. 始良市立加治木中学校女子バレーボール部外部指導者，2024年9月～現在
14. 鹿児島市スポーツ推進審議会委員，2025年6月～現在

古川 那由太 助教

寄稿

1. 「乳酸産生酵母*Lachancea fermentati* KPC1の産業的価値」，単著，『温古知新』，第62巻，2025年7月，pp.66-72.
2. 「酵母と乳酸菌の共接種法開始時期がシャルドネワインの香りに与える影響」，単著，『ファルマシア』，第61巻，第6号，2025年6月，p.561.

学会活動

- ・日本食品科学工学会 2022年5月～
- ・日本食品保蔵科学会 2023年11月～

社会還元

1. 講師：「美味しいだけじゃない！？酵母がもたらす恵み」，伊敷公民館講座，於：鹿児島市立伊敷公民館，2025年11月5日
2. 講師：「美味しいだけじゃない！？酵母がもたらす恵み」，奄美サテライト講座，於：鹿児島県立奄美図書館，2025年9月6日
3. 講師：「まさにミラクル！？味覚を変える食べ物・飲み物」，鹿児島県立鶴翔高等学校ミニ講義，於：鹿児島県立短期大学，2025年7月1日
4. 講師：「楽しい食事は健康なお口から！口腔環境正常化」，家庭教育学級，於：鹿児島市立武小学校，2025年6月9日

***** 生活科学科 生活科学専攻 *****

浅海 真弓 准教授

学会活動

- ・日本衣服学会, 2003年6月～
- ・日本繊維製品消費科学会, 2004年2月～
- ・日本家政学会, 2004年6月～, 日本家政学会被服材料学部会幹事(2017年5月～), 日本家政学会被服材料学部会役員(会計)(2021年5月～2025年6月), 日本家政学会被服材料学部会常任幹事(2025年6月～), 日本家政学会九州支部常任幹事(2022年6月～), 日本家政学会九州支部第68回大会実行委員長(2024年3月～2025年3月)

社会還元

1. 講師: 「洗濯の科学 一洗剤の成分と働き一」, 伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2025年11月26日

上笹貫 鷹暁 助教

社会還元

1. 講師: 「ビジュアルデザインとは?」, オープンキャンパス研究室紹介, 於: 鹿児島県立短期大学, 2025年7月19日
2. 講師: 「だれでもデザイン」, 出張講義, 於: 明桜館高等学校, 2025年9月11日
3. 講師: 「ビジュアルデザインとは?」, オープンキャンパス研究室紹介, 於: 鹿児島県立短期大学, 2025年11月23日

学会活動

- ・日本デザイン学会, 2022年4月～デザイン(実務)
- 1. 「Basketball Analystデジタルサイネージ広告」(株式会社バスケプラス), アートディレクション, 2025年5月
- 2. 「バスケプラスWebサイト」(株式会社バスケプラス), アートディレクション, 2025年7月
- 3. 「認知症オレンジシティかごしまロゴマーク/広報ツール」(鹿児島市), アートディレクション, 2025年8月

4. 「鹿児島県身体障害者福祉協会イベントチラシ」, アートディレクション, 2025年10月

北 一浩 准教授

社会還元

1. 講師: 「アイデアを広げるデザイン思考とは?」, 出張講義, 於: 志布志高校, 2025年11月6日

社会活動

1. 2018年4月～, 鹿児島市クリエイティブ産業育成支援検討委員

受賞

1. 第4回枕崎国際芸術賞展(主催: 枕崎市), 「That's one giant leap for a man, one small step for mankind.」, 入賞, 2025年5月

展覧会(グループ展)

1. 第4回枕崎国際芸術賞展, 枕崎市文化資料センター南溟館(鹿児島), 2025年7月～9月
2. 大唐津展, Kaikai Kiki Gallery(東京), 2025年12月

デザイン(実務)

1. 「認知症オレンジシティかごしまロゴマーク/広報ツール」(鹿児島市), クリエイティブディレクション, 2025年8月

坂上 ちえ子 教授

学会活動

- ・日本家政学会, 1990年～
- ・日本色彩学会, 1992年～, 評議員, 関西支部役員, MIC・ICD委員
- ・日本生理人類学会, 1992年～
- ・日本教育心理学会, 2005年～

社会還元

1. 講師: 「色の不思議を学びましょう」, オープンキャンパス研究室紹介, 於: 本学, 2025年7月19日
2. 講師: 「ファッションビジネス」, 出張講義, 於: 伊集院高等学校, 2025年9月18日

3. 講師：「色の不思議を学びましょう」、オープンキャンパス研究室紹介，於：本学，2025年11月23日

社会活動

1. 2025年2月～2027年2月，鹿児島県伝統工芸品産業振興対策協議会委員
2. 2024年4月～2026年3月，鹿児島市屋外広告物審議委員会委員
3. 2024年4月～2027年3月，鹿児島県屋外広告物審議委員会委員
4. 2024年6月～2026年6月，鹿児島市景観アドバイザー
5. 2025年6月～2027年5月，薩摩川内市景観審議会委員

穴戸 克実 教授

学術論文

1. 「トルコ都市における公営屋外喫茶施設の基礎的研究—公共空間としての役割を中心に—」単著（穴戸克実）『研究年報』第56号，鹿児島県立短期大学地域研究所，2025年3月21日，pp.1-14

その他（研究助成）

1. 分担，科学研究費基盤研究（C）日本学術振興会「トルコ諸都市における公共空間の現代の変容に関する研究」，2024年4月～2028年3月

社会還元

1. 研究成果展示
「谷間に息づく歴史都市：トルコ・ギョイヌクの街並みと文化」，於：鹿児島県立図書館エントランスホール，2024年12月25日～2025年1月15日
2. 研究成果展示支援
「写真が語るフィールドワークの世界—トルコ・ブータン・バルト三国の研究現場から」，於：昭和女子大学図書館3階コミュニティルーム，2025年2月18日～3月6日

学会活動

- ・日本建築学会
- ・日本中東学会

- ・地中海学会
- ・日本トルコ交流協会

田邊 しずか 助教

学術論文

1. 「1867年パリ万国博覧会以前のフランスにおける薩摩藩に関する報道とオークションに出品された薩摩焼」，鹿児島県立短期大学地域研究所『研究年報』，第56号，2025年3月，pp.39-57.

学会活動

- ・服飾文化学会，2016年5月～

社会還元

1. 講師：公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容師美容師養成施設教員資格認定研修会文化論講師，「ファッション文化史 西洋編，礼装の種類」，オンデマンド形式による講義，2025年7月6日～7月26日

社会活動

- ・2022年6月29日～公益財団法人かごしま環境未来財団評議員

田野 耕平 准教授

社会還元

1. 講師：「山梨県梁川古民家活用学生ワークショップ」，2025年6月14日
2. 学生活動支援：令和7年度「かごしまRe 空き家活用ワークショップ」，2025年11月

*** 商経学科 経済専攻 ***

岩上 敏秀 教授

学会活動

- ・日本ファイナンス学会，2022年1月～
- ・日本金融学会，2022年5月～

社会還元

1. 講師：「今さら聞けない！ニュースを読み解くための経済講座」，2025年度東京理科大学オープンカレッジ講座，2025年6

月

2. 講師：「ビジネスに役立つ世界情勢講座」, 2025年度東京理科大学オープンカレッジ講座, 2025年11月

福田 忠弘 教授

学会報告 (口頭)

1. 「戦前期アンボンにおける法人漁業について」, 第25回水産史研究会, 2025年9月7日, 於神奈川大学

社会還元

1. 講師：「特産品の販売方法をどう考えるか?」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2025年7月12日
2. 講師：「分断から統一へ～ベトナム戦争50周年目に振り返る～」, 奄美サテライト講座, 於：鹿児島県立奄美図書館, 2025年9月6日
3. 講師：「終結から50年：ベトナム戦争の記憶と教訓」, 伊敷公民館講座, 於：伊敷公民館, 2025年10月29日

その他 (討論者)

1. 生田目学文「ベトナム戦争枯れ葉剤被害者家族の生活実態と支援のあり方についての研究報告」に対する討論者, 2025年日本平和学会秋期研究集会, 於：名古屋学院大学, 2025年11月2日.

船津 潤 准教授

著書

1. 荒井悦代編著, 独立行政法人日本貿易振興機構 アジア経済研究所, 『ラージャパクサー一族体制の形成』, 共著 (○荒井悦代, 船津潤, 他3名), 2025年3月, 178総頁, 担当箇所: 第5章「ラージャパクサー族とその財政」, pp.135-158.

学会活動

- ・日本地方財政学会, 2000年～
- ・日本財政学会, 2000年～

社会活動

(非公開)

前田 千春 准教授

書評

1. 「小島尚貴著『脱コスパ病：さらば、自損型輸入』」, 単著, 『自治研かごしま』, 第137号, 2025年2月, p.34

学会活動

- ・林業経済学会, 2014年10月～
- ・日本森林学会, 2018年4月～
- ・亜熱帯森林・林業研究会, 2024年8月～

社会還元

1. 講師「世界の森林環境と森林認証制度」鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2025年6月21日
2. 講師「林業を取り巻く状況について」鹿児島税関支署教養講話, 於：鹿児島税関支署, 2025年11月26日

社会活動

1. 2025年4月～, 鹿児島市建築審査会委員
2. 2025年7月～, 栄門つながるこのまち実行委員会
3. 2025年9月, 鹿児島県統計グラフコンクール審査員
4. 2025年11月, かごしま木育キャラバン (協力)

その他 (研究助成)

1. 科学研究費助成事業, 若手研究, 「トルコにおける国有林内の不法占拠村落の実態と森林共同管理の可能性 (研究代表者)」, 2020年4月-2025年3月
2. 科学技術振興機構 社会技術研究開発事業, SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築), 「孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング (研究分担者)」, 2023年10月-2027年3月
3. 科学研究費助成事業, 基盤研究 (B), 「南アジアのコネクティビティとエネルギー転換：開発と環境保全をめぐる文理融合研究 (研究分担者)」, 2024年4月

-2029年3月

4. 地方公共団体金融機構，若手研究者のための地方財政研究助成事業，「地方森林環境税および森林環境譲与税の競合と棲み分け：鹿児島県を事例に（研究代表者）」，2025年4月-2027年2月

山口 祐司 講師

学会活動

- ・日本科学史学会 2010年～現在
- ・工業経営研究学会 2018年～現在
- ・日本経営学会 2018年～現在

社会還元

1. 講師：「国際経済の課題—米トランプ政権と米中対立をどうとらえるか」，鹿児島県立短期大学公開講座「現代における課題を考える—社会・経済・テクノロジー」第2回，於：鹿児島県立短期大学，2025年5月24日

*** 商経学科 経営情報専攻 ***

岡村 俊彦 教授

学会活動

- ・日本人間工学会，1987年4月～
- ・日本生理心理学会，1988年4月～
- ・日本心理学会，1989年10月～

社会還元

1. 講師：「短期大学での学びについて」 鹿児島高等学校「論述演習」講師 於：鹿児島高等学校，2025年5月14日
2. 講師：『講座：ICT技術とプログラミングの基礎』において「AIとDXが社会にもたらす影響」，「効率的な業務推進に役立つパソコン操作のコツ」を担当。中堅教諭等資質向上研修 於：鹿児島県立短期大学，2025年7月30日
3. 講師：「ネットの中の心理学」秋のオープンキャンパスミニ講義，於：鹿児島県立短

期大学，2025年11月12日

社会活動

1. 社会活動，2003年4月～，鹿児島産業保健総合支援センター 特別相談員
2. 社会活動，2007年4月～，鹿児島女子高等学校 学校評議員
3. 社会活動，2013年3月～，鹿児島ラ・サール学園 評議員

岡村 雄輝 准教授

学会活動

- ・日本簿記学会（2018年8月～）
- ・日本記号学会（2017年4月～）
- ・日本会計研究学会（2013年9月～）
- ・日本会計史学会（2012年10月～）
- ・九州経済学会（2009年12月～）

社会還元

1. 講師「会計実務のコンピュータ化は，地元企業にどのような影響を与えるか？—会計のAI化について語る」，鹿児島県立短期大学公開講座，於：鹿児島県立短期大学，2025年6月28日

社会活動

1. 2019年9月～，鹿児島県公衆浴場入浴料金審議会委員

倉重 賢治 教授

学術論文

1. 「ラインが停止しない条件下における投入順序とコンベヤ速度を同時に考慮した混合組立ライン問題」，共著，（○倉重賢治，柳川佳也），『日本経営工学会論文誌』，Vol.76, No.1, 2025年4月, pp.15-25

学会発表（口頭）

1. 「多段階多サイズ混流組立工程における作業者と作業対象物が並進する個別搬送とコンベヤライン搬送のメイクスパンの比較」，共同，（○橋本輝，柳川佳也，倉重賢治），第34回計測自動制御学会中国支部学術講演会，2025年11月, pp.79-80

学会活動

- ・日本経営工学会, 1993年～
- ・日本機械学会, 1994年～
- ・日本生産管理学会, 2003年～

社会還元

1. 講師：「データは嘘をつかない？」, 公開講座, 2025年6月7日
2. 講師：「ICT技術とプログラミングの基礎」, パワーアップ研修（中堅教諭等資質向上研修）, 2025年7月30日
3. 講師：「お見合い問題」, 出張講義, 於：伊集院高校, 2025年9月18日

瀬口 毅士 准教授

学会活動

- ・日本経営学会, 2006年～
- ・日本比較経営学会, 2004年～
- ・多国籍企業学会, 2013年～
- ・日本流通学会, 2014年～
- ・経営史学会, 2014年～

学会活動

1. 2021年10月～, 鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会委員
2. 2023年4月～, 鹿児島地方最低賃金審議会委員
3. 2024年5月～2025年3月, 鹿児島県総務部学事法制課「魅力ある県立短期大学づくり検討委員会」ワーキンググループ構成員

竹中 啓之 准教授

学会活動

- ・日本経営学会 1993年～ 会員

社会活動

1. 公益財団法人鹿児島住宅・建築総合センター評議会評議委員, 2021年6月～

近間 由幸 准教授

著書

1. 大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』, 旬報社, 2025年6月, 550総頁, 担当箇所：第二部第三章「主要産業の動向」（「商業・流通・サービス業」の項）,

pp.229-233

書評

1. 「小松史朗著『日本の生産システムにおける労働と管理：変容過程とその含意』」, 単著, 『社会政策』, 第16巻, 第4号, 2025年2月, pp.353-356

その他（研究助成）

1. 研究代表, 科学研究費若手研究日本学術振興会「小売業における接客サービス労働の労働過程と労働移転に関する研究」, 2024年4月～2027年3月
2. 研究分担, 科学研究費基盤研究（B）日本学術振興会「ポスト・フォーダイズムの労働編成に関する労働社会学的研究：産業間の比較から」, 2025年4月～2029年3月

学会活動

- ・日本労働社会学会, 2015年～, 幹事, 2022年12月～
- ・社会政策学会, 2016年～, 春季大会企画委員会委員, 2022年8月～, 学会誌編集委員会委員, 2022年8月～
- ・労務理論学会, 2019年～

社会還元

1. 講師：「ジョブ型雇用の現状と課題」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2025年6月14日

*** 商経学科 二部商経学科 ***

宗田 健一 教授

書籍

1. 『ステップアップ簿記』, 分担執筆（○小野正芳編著, 宗田健一他20名）『同文館出版』, 2025年6月20日, 271総頁, 担当箇所：「第17章 本支店会計」, pp.179-193.

資料

1. 「管理会計に対する中小企業経営者と税理士間の認識ギャップの識別に関する考察」, 単著, 宗田健一『研究年報』（鹿児島

鳥県立短期大学 地域研究所) 第56号, 2025年3月, pp.59-77

2. 「中小企業におけるインボイス制度・電子帳簿保存法への対応と経理業務の実態－鹿児島県中小企業家同友会へのアンケート調査結果を基礎として－」, 単著(宗田健一), 『商経論叢』第76号, 2025年11月, pp.27-65

学会発表(口頭)

1. 「書面添付制度と保証に関する理論的・制度的研究」(課題研究委員会最終報告), 共同(○河崎照行, 宗田健一他11名), 中小企業会計学会第13回全国大会, 関西学院大学(対面開催), 2025年11月29日

学会活動

- ・日本会計研究学会, 2002年～現在, 会員
- ・国際会計研究学会, 2007年～現在, 会員
- ・日本簿記学会, 2008年～現在, 会員
- ・日本会計教育学会, 2009年～現在: 会員
 - －理事(2017年～現在, ICT委員長: 2023年～現在)
 - －第17回全国大会, 準備委員(2024年10月～2025年12月)
- ・中小企業会計学会, 2013年～現在, 会員
 - －理事(事務局, 2024年～現在)
 - －学会誌編集委員会(委員), 2024年～現在
 - －課題研究委員会(委員), 「書面添付制度に関する委託研究」, 2023年11月～2025年11月
 - －課題研究委員会(委員), 「IFRS for SMEsと各国中小企業会計制度の再検証-国際的収斂と地域的多様性の視点から-」, 2025年11月～2027年11月(予定)
 - －第13回全国大会, 準備委員(2024年11月～2025年11月)
 - －第14回全国大会, 準備委員(2025年11月～2026年11月(予定))
- ・日本経済会計学会, 2015年～現在, 会員
- ・日本管理会計学会, 2017年～現在, 会員
- ・日本財務管理学会, 2019年～現在, 会員
 - －理事, 2023年4月～2025年11月, 2025年

11月～現在

－第62回春季全国大会, 準備委員長, 2025年11月～2026年7月(予定)

- ・日本経営会計専門家研究学会, 2022年～現在, 会員
- ・American Accounting Association, 2023～現在, 会員
- ・学会誌(非公開)査読者, 1件

社会活動

1. 龍谷大学校友会鹿児島支部 理事, 2017年度～現在
2. 非公開2件

その他－競争的資金(学外)

1. 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金), 研究課題名: 「デジタル化時代における中小企業の会計情報作成プロセスに関する研究」(研究代表者), 研究種目: 令和5(2023)年度 基盤研究(C), 課題番号: 23K01691, 補助事業期間: 2023～2025年度
2. 中小企業会計学会, 「書面添付制度に関する委託研究」(共同研究者), 委託期間: 2023年11月～2025年11月
3. 中小企業会計学会, 「IFRS for SMEsと各国中小企業会計制度の再検証－国際的収斂と地域的多様性の視点から－」(共同研究者), 2025年11月～2027年11月

その他－競争的資金(学内)

1. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「書面添付の実践が中小企業の経理業務に与える影響の分析」(代表者), 共同プロジェクト, 2025年度
2. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「中小企業における経理業務のデジタル化対応とその課題分析」(代表者), 共同プロジェクト, 2025年度
3. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「中小企業における書面添付制度の利用実態に関する調査」(代表者), 研究成果公開, 2025年度

田口 康明 教授

研究ノート

1. 学習指導要領の法的拘束力の問題点 公教育計画研究16 公教育計画学会編 八月書館 2025年6月21日

シンポジウム報告

1. シンポジウムの司会を終えて－「内憂外患」の「子どもの人権」 前掲書掲載研究ノート

社会還元

1. 講師：「教育の世界で「情報化」はどのように議論されてきたのか」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2025年5月31日

藤野 博行 准教授

学会活動

- ・初年次教育学会, 2015年～, 会員
- ・日本私法学会, 2013年～, 会員

社会還元

1. 講師：共立女子大学・短期大学「第4回教育学マネジメントに関するSD研修会－教育力向上を目指して－」, 於：オックスカナルパークホテル富山, 9月13日～14日

社会活動

1. 官学連携学生指導：日置市美山地区の街歩きマップの作成・発表および地域住民の方々とのワークショップ実施, 於 日置市美山地区公民館
2. 官学連携学生指導：日置市の地域コミュニティ通貨まちのコイン「とっば」アプリを活用した利用促進イベントの実施, 於 日置市観光案内所, 南日本新聞2024年11月7日掲載

『KUROSHIO』 第 51 卷

2026 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 **鹿児島県立短期大学地域研究所**

〒 890-0005

鹿児島市下伊敷一丁目 52 番 1 号

TEL : 099-220-1111

FAX : 099-803-4473

印刷所 株式会社鹿児島新生社印刷

〒 891-0132

鹿児島市七ツ島 1 - 3 - 21

TEL : 099-261-0111

FAX : 099-261-3100

表紙写真：内田克巳撮影

KUROSHIO